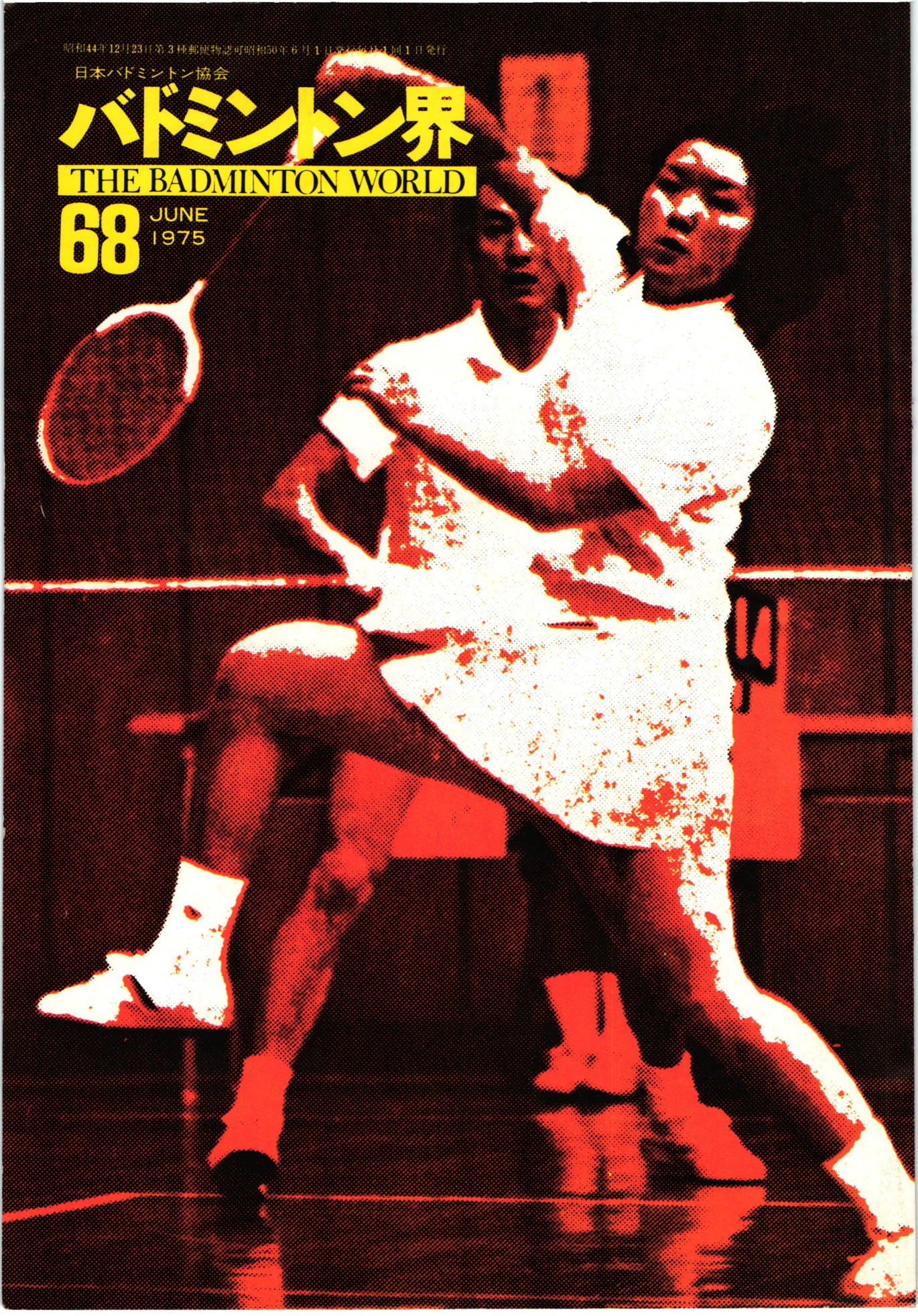
昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和50年6月1日発行

日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

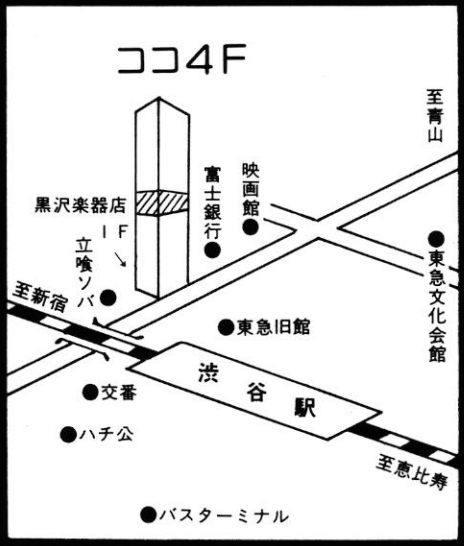
68 JUNE 1975



世界で初めて
BADMINTONだけの

ラケットショップ元町 ・渋谷店

☎03−400−7390



バドミントン界
THE BADMINTON WORLD
NO. 68
1975年6月号

目次

表紙撮影・山田真市，同制作・小浜正道，本文中写真・山田真市

無念!!ユーバー杯V4ならず……2
ダブルスでついに一勝もできず
湯木，中山の大健闘もむなし

第65回全英選手権大会・男子シングルス決勝を観戦して
●小島一平……4
プリ，ネットプレーに大きな進歩
ハルトノ，信じられぬ敗戦

バドミントンに賭けた青春
むきだしの闘志・湯木博恵さん
●大沢健一……6

家庭婦人バドミントンコーチ体験談〈第4回〉
●徳重英樹……14

昭和50年度関東学生春季リーグ戦
男子は法大，女子は日女体大が全勝……20
慶応大学は再び二部へ無念の降格
二部は青学大と新進群馬大が制す……24
ともに一部への昇格をはたす
入替戦結果……27

ニュースと話題を追って
後藤記者の内外展望台
●後藤忠弘……30

バドミントン・ハンドブック第III編
審判に関する100問集……33

北から南から・各地のたより……34
昭和50年度日本バドミントン協会検定審査用具一覧表……36

島根県第19回スポーツ賞
北島稔子さんに決定……38

村岡四郎氏を悼む
●森友徳兵衛……40

編集室から……40

一杯V4ならず

ダブルスでついに一勝もできず

第七回ユーバー杯世界女子バドミントン選手権大会で、日本は史上初の四連覇に挑戦したが、惜しくもインドネシアに阻れた。

大会最終日の六月六日午後七時（日本時間午後九時）から、ジャカルタのスナヤン・スポーツ宮殿で日本×インドネシアの決勝が行われた。

日本は、全英選手権二連勝の湯木、ベテラン中山の活躍で、前半戦のシングルスを2－1とリードしたが、ダブルスにはいって、インドネシアの粘りにあい、一勝もできず2－4と敗れ去った。続く最終ダブルスも落とし、2－5という結果に終わった。

日本は一九六六年の初参加でタイトルを奪ってから二度の防衛に成功したが、ついに三度目に敗れ、王座を明け渡した。

これによって、インドネシアは男女とも世界の王座に君臨することとなったのである。

▽試合結果

日本2（S2－1 D0－4）5インドネシア

徳田 0（2－11）2 タティ
中山 2（11－3 11－5）0 ウタミ
相沢 中竹 1（9－15 15－6 6－15）2 ミナルニ レジナ

湯木 池田 0（9－15 4－15）2 イメルダ テレシア
湯木 池田 0（11－15 8－15）2 ミナルニ レジナ
相沢 中竹 0（0－15 14－17）2 イメルダ テレシア

湯木2（11－1 11－7）0テレシア

会場ゆるがす一万余の声援
徳田の若さも通ぜず

○…会場のスナヤン・スポーツ宮殿は一万人を超す観衆の人いきれで三〇度以上の暑さ。バドミントンが国技の国がらだけに一弾ごとにすさまじい歓声が会場をゆるがした。一番手の湯木は全英選手権三回優勝の貫録十分。テレシア選手を前後左右にゆさぶり、危なげなく勝ちをにぎった。つづく徳田は老巧なタティ選手に弱点のバックを攻められ、あせりも加わって敗退。しかしユーバー杯四回出場の中山は冷静そのもの。機械のような正確さで、クリアを連発、いらだつ相手のミスを誘って前半のシングルスは日本が2－1で先行した。

ダブルスの竹中・相沢組は一セット目、消極的すぎて、インドネシア・ペアのスマッシュを浴びたが、二セット目は思い切って打って出てばん回、しかし最終セットは会場をゆるがすインドネシア観衆の喚声に気をのまれたか、再び積極性を欠く試合運びとなってゲームは振り出しにもどった。

つづく湯木・池田組はどうしたことか、最初から呼吸が合わず、インドネシア・ペースになった。二セット目、日本ペアはようやく調子を上げ、激しい打ち合いになった。だが力にまさるインドネシアのペアにかなわなかった。（増子特派員）

「観衆に圧倒された」

日本の四連勝を阻めるかどうか、スナヤン・スポーツ宮殿は一万人を超す観衆で埋めつくされた。後半インドネシアが激しく追いはじめると観衆が手をたたいての声援。小飼監督は「選手たちはこの観衆に圧倒されてしまった」というほどのすさまじさ。「バドミントンのスマッシュは目と同時に音を聞いて動作を起こすのだ」と同監督はいうが、しかしインドネシアチームの強さは地元の有利を差しひいても余りあるものだった。（増子特派員）

〈朝日新聞6・7〉

無念!!ユーバ

湯木、中山の大健闘もむなし

精神力保つ体力を ダブルス スピードが課題

世界の女王の座に九年間君臨した日本女子バドミントンは、六日ジャカルタで行われたユーバー杯大会の決勝で地元インドネシアに5―2で屈した。前半のシングルスで2―1とリードしながら、後半のダブルスは総くずれのあっけない逆転負け。その原因は、再建の方法は――日本選手団と行動をともにした日本バドミントン協会国際委員の宮永武司氏（元全日本選手権者、前トマス杯男子世界選手権チーム・コーチ）は、その夜の日本チームの戦いぶりを振り返って、ジャカルタから次のような手記を読売新聞社に寄せた。

◇

バドミントンは、インドネシアの〝国技〟とあって、その人気と、試合会場の異常なまでのふん囲気は、日本では想像出来ないほどだった。時には、地元ファンがあまりに熱狂するため、試合途中で競技を中断しなくてはならないことが、たびたび過去の大会であった。

こうしたふん囲気の中で行われる大試合では「頼れるのは自分だけだ」という事実を、今回の敗北で日本選手は、痛切に感じたことだろう。わが国のバドミントン競技は、学校スポーツからスタートした。それは練習でお互いに助け合い、ワザをみがくという点では、きわめて便利なシステムであるしかし、本当に〝強く〟なるためには、画一的な通りいっぺんの練習ではダメだ。

どんな環境の中でも、いったんコートに入れば、物に動じない強い精神力が必要であり、さらに、その精神力を維持する体力が要求される。

これまでの日本は、中山、湯木という強い精神力を持ち合わせた二人によって、その地位が確保出来た。だが中山、湯木にしても、その強じんな精神力は最初から持ち合わせていたのではなく、苦しい練習と絶望的な敗北感の中から、自らつかみ取ったものである。中山と同じく、今大会で活躍したインドネシアのミナルニ夫人㈢にしてもそうだ。シングルスで日本が2―1とリードしたのを、ダブルスで粘り強く逆転したのは、ミナルニ夫人の底力だろう。

会場のふん囲気は、たしかに異常とも見えるほど高まっていた。しかし、観客は割れるような歓声をあげながらも、静かにすべき時には「シー」と合図し合って自粛し、日本の好プレーにも拍手を送っていた。日本のチーム関係者が「うるさくて集中力を乱された」といったとすれば、それは弁解にすぎない。インドネシアの観衆はやかましかったがフェアであった。

技術的に見れば、この夜の日本の姿は、一昨年、中国との初交流に敗れた時、すでにカゲが見えていたといっていい。その時、関係者は「これでは危ない」とだれもが考えたはずだ。「スピードのあるダブルス」は、それ以来、課題であったはずである。それが、生かされなかったのは、残念と言わねばならない。

日本のプレーのタイプを、あえて変える必要はないだろうが、ダブルスにおけるスピードと、サービスの形は、研究課題だ。次の大会までの三年間という時間は、決して長くはない。三年前6―1で軽く破ったインドネシアが、ここまで成長した。三年後、日本は、果たしてタイトルを奪回することが出来るか――その勝負は、このユーバー杯大会が閉幕した時からすでに始まっている。

（宮永　武司）

〈読売新聞6・8〉

詳報は次号に掲載

BADMINTON CHAMPIONSHIPS

Championship

vs. Spend Pri

第65回全英選手権大会・男子シングルス決勝を観戦して

プリ、ネットプレーに大きな進歩

宿命の対決

ハルトノの史上初の八連勝成るか、また、プリの悲願ついに実るか、注目の一戦であった。

私にとってハルトノは、常に行手に大きく立ちふさがる相手であり、過去一勝八敗と完全に打ちのめされている。

しかし、昨年の全英選手権の結果を、遠征した日本の選手たちからの話によって総合すると、練習不足の感はまぬかれず、力もだいぶ下降線をたどっているようであった。

果たせるかな、前哨戦のデンマークオープンでは、以前のハルトノとは、非常に違っていた。まず第一に、一回戦から相手にポイントを与えすぎるということである。かつては、ほとんどストレート勝ち、それも前半大きくリードしておいて、そのまま逃げ切ってしまうという、圧倒的な試合がほとんどであった。

ところが、今回のハルトノは、スタートが非常に悪く、幾度となくポイントをリードされ、悪い時は、セッティングにまで持ち込まれるというほどであった。準決勝の対デルフス（デンマーク）、決勝の対プリ、いずれも一ゲーム先取されたという事実をみてもあきらかである。

全英選手権七連勝という大きな自信に支えられているというか、相手をうまくかわすというような、そんなプレーになっており、以前のような動物的な激しくきびしいプレーをあまりみせなくなってしまっていた。攻撃力が落ち、レシーブの鋭さで勝つといった内容なのである。

要するに、結論はかけひきのうまさと、七連勝という大きな無言の圧力（これが相手にとっては重くのしかかってくるものなのである）によって勝ち進んだのではないだろうか。

積極的に打つプリ

今回プリは、デンマークオープン、全英選手権ともにシングルス一本にしぼり（以前はダブルス、ミックスにもフルエントリーしていた）、打倒ハルトノに燃えていたのは事実であった。

そして、いよいよ決勝で両雄が対戦したのである。

第一ゲーム、スタートからプリは積極的に攻撃をしかけ、ハルトノのバック側に猛烈なスマッシュを決めたのである。

東南アジアの選手、なかでもインドネシア・中国をみると、ネットプレーが非常にすぐれており、反面ヨーロッパ選手は、大ざっぱというのがここ数年の傾向であった。

とくにハルトノのネットプレーは、シャトルを回転させ、至近距離はもちろん、ネットから三〇センチ離れたところからも、コントロールよく正確に入れるテクニックが卓越していた。

つまり、今までプリがどうしてもハルトノに勝てなかったのは、ネットプレーの差が大きな重要なポイントだったのである。

ネット冴えるプリ

しかし、この決勝においてはほぼ互角、いやそれ以上といってもよいほど、プリのネットプレーはさえわたり、連続四度のネットインの応酬をするほどであった。

このプリのネットプレーがハルトノの精神面に大きな影響を与えたのではないかと思う。

しかし、いつものことであるが、一ゲームを先取しても、プリが勝つということは、非常に

the 65th annual ALL-ENGLAND Gentlemen's Singles FINAL Rudy Hartono

ハルトノ、信じられぬ敗戦

少ない可能性しかないと誰しも思っていたであろう。

私もハルトノ八連勝の可能性が強いと信じていた。

プリは、ハルトノとの試合でも精神的プレッシャーがかかりすぎ（どの選手でもハルトノと試合するときはそうであるように）、きびしいプレーの緊張感に耐えられず突然くずれ去ることが多かったのである。

ハルトノじっくりばん回

第二ゲームにはいると、やはりハルトノがジリジリとリードしはじめたのである。そして、一方のプリは集中力がにぶり、また多少の疲労もみえはじめたのである。

ところが、ここで今まで見られなかったプレーが発揮されたのである。プリは自滅することなく、ポイントが開いても我慢に我慢を重ね、徐々に追い上げていったのである。

9オールのこの時点で、私には、あわよくばという気持が感じられた。私が観戦していたところの後ろには、プリの奥さんとデンマークの役員が、そして二階にはデンマークの選手が陣どり、一球一球ラリーが終わるたびに大声援をおくり、デンマークのバド関係者一丸となって新チャンピオンの誕生を熱狂的に願っていた。

劇的なその一瞬!!

しかし、さすがにハルトノは、14－12とゲームポイントを握ったのである。このとき私が非常に驚いたのは、ハルトノが12－10で、プリのサービスをハイ・クリアー・ミスしたのである。こんなことは、いつものハルトノには考えられないことなのである。

おそらくハルトノの胸中に、〝いつものプリと違うぞ〟という気持が去来し、精神的重圧を感じていたのであろう。それがこのイージーミスを誘発してしまったのだと思う。

そして14オール。

ここに至っては、一ラリー一ラリーを、見ているほうの胸が苦しくなる思いであった。プリ夫人も、両手を顔にあて、もう見ていられないという様子であった。

ついにプリは最後の一本をとり、ゲームセット!!

ハルトノ八連勝ならず!

ハルトノは信じられないといった表情を浮かべ、私も呆然としてしまった。

この瞬間、勝ったプリ、敗れたハルトノの胸中を思い、同じプレーヤーとして、私は複雑な心境とそして、自分にもあった何度かのチャンスが走馬燈のように去来したのである。

明暗くっきり

プリは体中で喜びを表わし、興奮状態となってしまい、表彰式も忘れるほどで、いったん控え室に帰りかけてしまうほどだった。

そして、このときもう一つのすばらしい光景が目にはいった。インドネシアのコーチが、ハルトノのもとへ走り寄り、健闘をたたえ、肩をだきかかえたのである。ここに、私を含めて多くの人が、勝負のきびしさをまざまざとみせつけられたのである。

余談になるが、終了後のレセプションのスピーチで、

「ハルトノは偉大なプレーヤーであり、また来年も八回目の優勝をめざしてほしい」

という話があり、割れんばかりの拍手であった。

また、プリはユーモアたっぷりに、

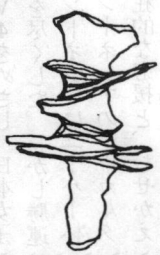
「今年のイギリスの審判は、非常にフェアであった」

と述べ、会場は一瞬どっとわいたのである。

忘れられぬ名勝負となる

いずれにせよ、プリが念願を果たし、勝ったことは、今後ヨーロッパ選手に対する影響は強く、ヨーロッパ勢の力はあなどれなくなるようである。

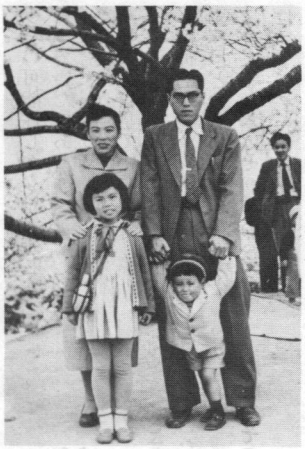
最後に、ハルトノは昨年グナラン（マレーシア）、ジョンソン（スウェーデン）に苦しめられた末ようやく勝ったこともあり、今年は気をひきしめてきたことだろう。その意味においても、ここ数年になかった好勝負として忘れられぬ試合となることであろう。



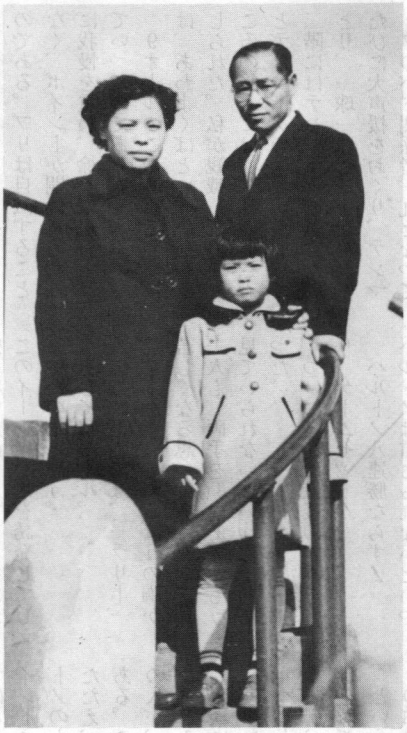
バドミントンに賭けた青春

むきだしの闘志・湯木博恵さん

●大沢健一









●小さかった頃●

ユーバー杯V4をめざし、日本女子チームは全力を尽くした。しかし勝運なく、宿敵インドネシアにユーバー杯は渡った。インドネシアのジャカルタで、地元の熱狂的な応援と、むせかえるような熱気、暑さと戦い、選手たちは、自分のすべてを賭けてシャトルを追った。

たとえ勝負に敗れたとしても、その努力の足跡、栄光は消え去るものではない。

本稿は、日本のキャプテンとしてその重責に耐え、常にチームの先頭に立ってきた湯木博恵選手の青春を追ったものである。

ここに、世界の女王・湯木博恵の知られざる一面がある。

◇　◇　◇

この春、僕は知床の流氷の上にいた。歩いてはころび、歩いてはころびしながら、流氷の端から端まで歩いてみた。片方は知床半島、対岸はソ連領、国後島。

その日は、全英選手権の最終日だった。北海道に行く前の日、湯木さんに

「今年はどうですか?」

と、失礼な質問をしたばかりだった。

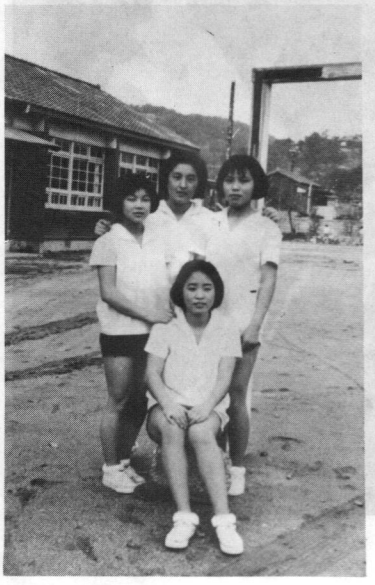
湯木さんは、

「やってみなければ、わかりません」

そういって笑った。失礼な質問をしたという悔いが、仕事で北海道をまわりながら、僕







なつかしい中学・高校時代



の頭にこびりついて、離れなかった。

流氷をみたいという僕を、一トン半の船で案内してくれた老漁師の人に、最初に質問したのも、湯木さんへの質問と似たようなものだった。

「この上に乗れますか?」

「大丈夫ですよ」

もう60才を超そうという漁師の人は、ニッコリ笑って、僕を流氷の上におろしてくれた。氷点下20度——足もとが冷たい。氷が割れたり、海流に押しながされたりしたらどうなるんだろうと心配している僕に、

「流氷に閉じ込められて、国後島まで流されて帰ってきた人だっているんですよ。心配することはありません」と、答えた。

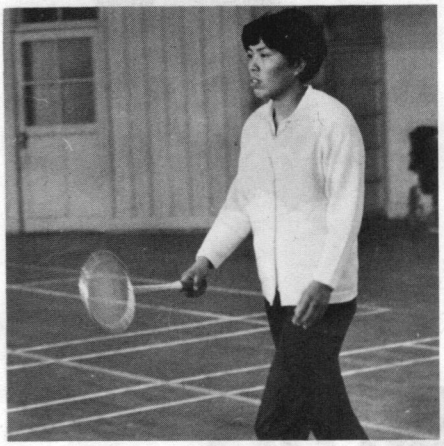
その朝、僕は羅臼の町で、小学校6年生位の女の子が、凍てついたアイスバーンの路上で、頬を真赤に染めて、バドミントンをしているのを見たばかりだった。地の果てといってしまえば、地元に生活している人々に失礼にあたるかもしれないが、こんなところに、バドミントンをやっている子供達がいる——アイスバーンの道に足をとられまいとしながら、必死になってシャトルを追っている子供達がいるということだけでうれしくなってしまったばかりだったのだ。

海をコートだとすれば、その日、僕は流氷というネットの上にいたことになる。シャトルが僕の頭の上を——白銀の氷の上を白い水鳥が乱舞する。氷の上に寝て、目をつぶっていると、流れる汗をぬぐおうともせず、戦っているであろうプレーヤーの姿が脳裏をよぎった。その瞬間、僕は、目にみえない国境の



湯木（山陽女）三連勝飾る

秋季バド ミントン 男子は芳上（南）に栄冠





真ん中にいるということを知ったのだ。流氷の上に、粉雪が舞い始めた。

「夕方は時化ますよ」

案内してくれた漁師の人は、帰りを促した。国後島の生まれというその人は、羅臼の町で、生まれ育った故郷を、じっとにらんで、生活しているのだ。

帰りの船の上で

「あの島はもどってきますか？」

とたずねたら、

「無理でしょうね」

と、あっさりいって、温和な眼差しが、急に厳しくなった。

「国後にはねえ、知床と同じ地名が沢山あるんですよ」

港についた時、漁師の人は、ポツンとつぶやいた。故郷を失なった悲しみが、漁師の人の表情にはあった。

湯木さんに

「過去の想い出はありますか？」

と質問した時、

「サァー、わすれるほうですから、あんまり……」

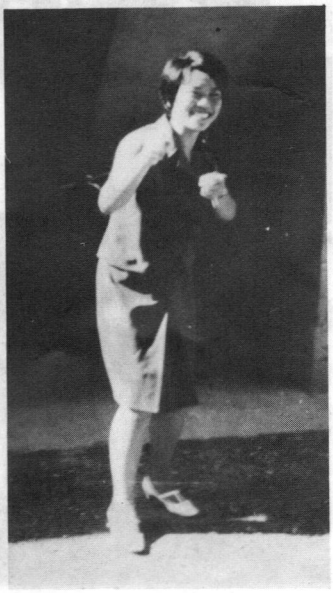
といった言葉が、印象に残っている。

本心は、口に出さねどという心意気なのだ。何故か、僕を流氷に案内してくれた漁師の人との短い会話は、湯木さんを連想させるのだ。

仕事をしている時は、僕が何を話かけても語らない——俺の生活に口を出すなという態度なのだ。湯木さんが練習しているのを見ていると、一介の傍観者にしか過ぎない僕は、その練習ぶりにたじろいでしまう……圧倒されてしまうのだ。







学生時代の友人たちと

「バドミントンのトッププレーヤーなんて、みんな片輪者ですよ。それしか、世間を知らないんですから」

という話を聞いたことがある。

湯木さんの一日の生活をみれば、確かにそうなる。朝5時起床のトレーニングからスタートして、オフィスレディとしての生活。母校（日本女子体育大学）での練習。アパートに帰る時間は12時過ぎとくれば、他のオフィスレディとは、まるで異なった生活なのだ。一日のほとんどの時間が、バドミントンといえば、そういった人の言葉もあたっているかもしれない。

だが、ひとつの道をきわめること——それが、その人の底辺、生き方、考え方の幅を創造していくことになりはしないか？。湯木さんには、それがあるように想える。

湯木さんにインタビューした時、失礼とは思ったけれど、湯木さんの手下げカバンの中を、ちょっと拝見——。編みかけの刺繍に、瀬戸内晴美さんの本が一冊。自分に厳しい人だから、自分の生活を何もいわないだけなのだ。

〝池田を手玉、3連勝〟

昨年の全日本総合の時の、新聞の見出しである。

あとは、試合の解説と、ゲームのスコアだけである。新聞をみていて、ちょっと悲しくなるのは、いつもその部分なのだ。文章のどこにも、人間、湯木博恵は語られてはいない。

現在の湯木さんには、栄光に栄光を重ねていく姿がある。岡山・山陽女子学園から、日本女子体育大学、女子バドミントンのエリー

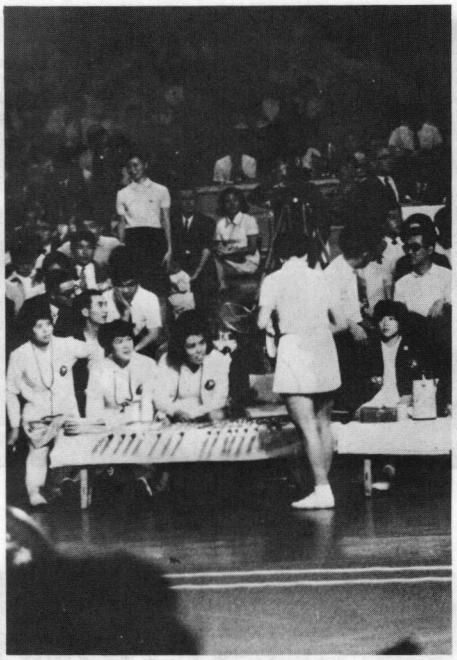


69年の顔 …③…

湯木博江選手

ユ杯の完敗で奮起

人間的にも大きく成長





日本の中心に成長

トコースを歩み、勝利は、当然のものと思われている部分もある。スランプもあったろうが、その内側を知っている人は、すくないだろう。

「私が、バドミントンを始めたのは、12才の時からです。両親とか、周囲の理解があって、練習で遅くなると、かならず、迎えにきてくれたり、大学にいっても、体調のことか、すべての人が私のことを心配してくれて、だから……そう、今までやってこれたんだと思います。女の26才というと、婚期を逸しているというのが、日本の一般的な考え方なんですが——平凡に結婚したいとか、バドミントンを止めたいとか、いろいろ、悩んだこともありました。でも、ラケットを振っている苦しさ、辛さ、そして楽しさ、それは、なにごとにもかえがたいものでした。だから——そういう大切なものは、いつまでも、自分で長く持っていたい……楽しさ、辛さ、悲しさを、自分なりに持続させていきたいと願っています……」

湯木さんが、簡単に話したことのなかで、僕が胸うたれたのは、ラケットを振る——何事にもかえがたいという部分なのだ。僕以上に、湯木さんを知っている人は、バドミントンの世界には多勢いるだろう。が、僕は、その話を聞いただけで、ひとりの心優しい女性の素顔をかいまみたような気がしたのだ。

全英を勝ち、去年の全日本総合で池田美加さんとのコンビで、竹中・相沢組を破ったことが、今年の全英での竹中・相沢組の優勝という刺激を与えたとすれば、湯木さん、あなたは、ユーバー杯V4のエースばかりでなく、



日本、ユーバー杯を防衛

米国と並ぶ三連勝

第21回 インドネシアを破る



バドミントン女子ペア

日本スポーツ賞

中山・湯木に輝く

世界の5大タイトル独占

頭脳と力のコンビ

「ユーバー杯3連勝めざす」

アア日本一になったバドミントンのペア中山●と湯本



アキレス腱断裂の不運ものりこえて

すぐれたオルガナイザーでもあり得たのだ。

「私はけっして、人を指導できるタイプではありません」ともいう。が、そのゆるぎない湯木さんの姿勢が、多くの選手に、戦う意欲をわきたたせたことか……。話をしているとキツイ人だなァという印象がある。

「ひとつのことをやっていると、ほかのことって、全部わすれちゃうんです」

そうつけくわえた。内に秘めた闘志というのではない。むきだしの闘志なのだ。だから、内に秘めたものは、人間的な優さしさ——僕はそう思う。物事にケジメをつけて、キチンキチンと処理していく人なのだ。

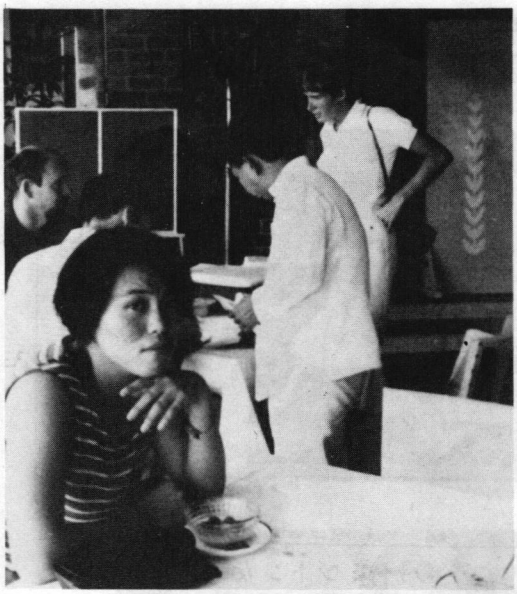
ユーバー杯、勝ってもらいたいと思う。が、湯木さんの言葉を借りれば、

「やってみなければわからない」

ということになる。

五木寛之さんの短篇小説のひとつに「霧のカレリア」というのがある。第二次世界大戦の時、ドイツ側に加わったフィンランドが、敗北し、フィンランドの領土であったカレリアを、ソ連に与えなければならなかった。カレリアに生活していた人々は、カレリアに留まって、ソ連人となるか、自分が生れ育ったカレリアを捨て、フィンランド人として生きるかの選択をテーマとしたものだった。

「ひとりのこらず、祖国を選んだ」というフレーズが、妙に印象に残っている。国家体制のことではない。民族という問題なのだ。ユーバー杯V4、ひとりのファンとして血が騒ぐといえば、僕は、やはり日本人だという想いがある。知床で、僕を案内してくれた老漁師、湯木さん、そして僕。





世界へ大きくはばたく



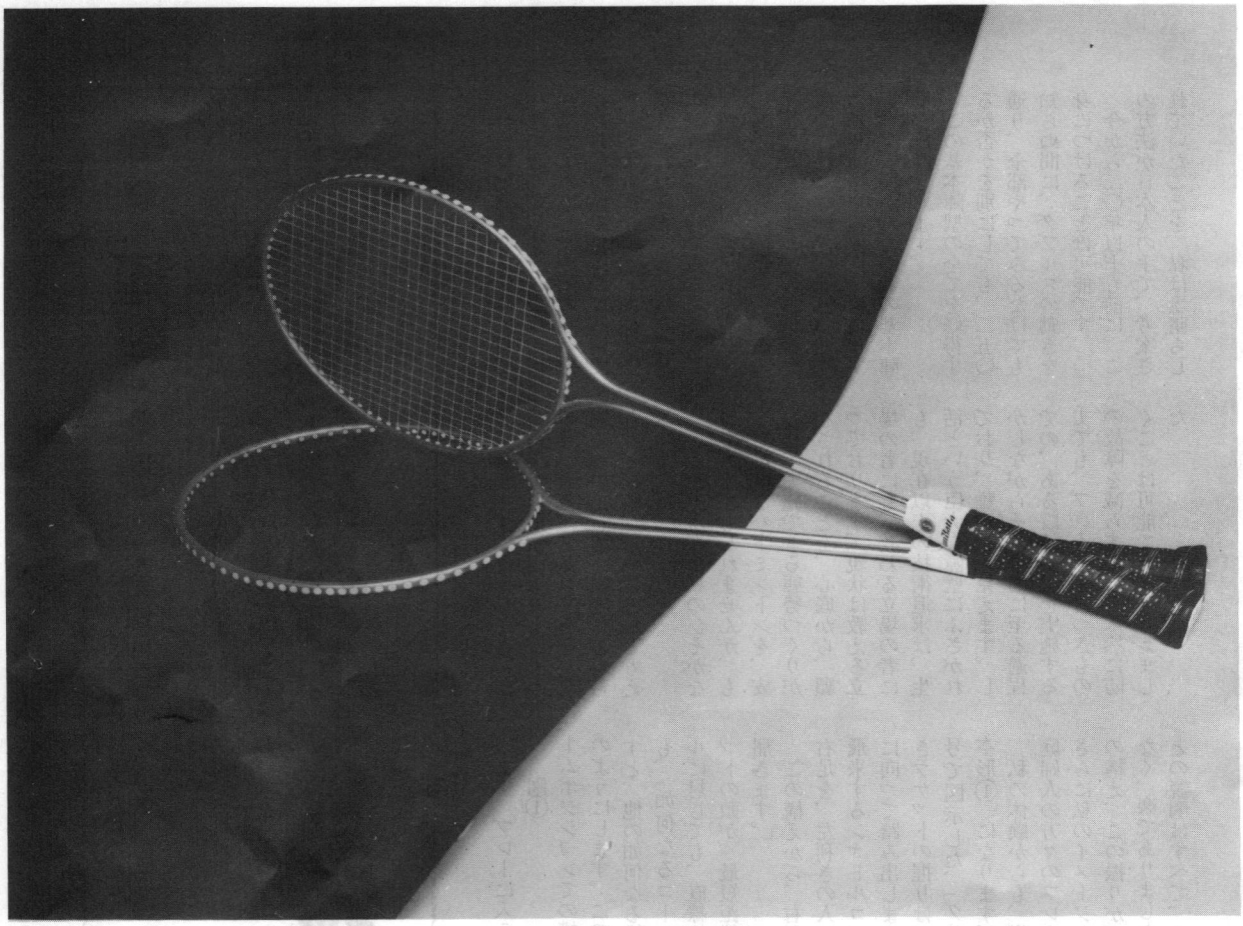
僕が、バドミントンのファンとして、試合を観ていて、美しいといつも想うのは、勝っても負けても、ゲームを終えて、ラケットをかかえて、コートを去っていく選手の後姿だ。大きな会場であればあるだけ、足早やにコートを去っていく後姿だけが、点景のように印象に残る。

湯木博恵さん、あなたはユーバー杯で、コートに倒れるまで、己れの生命を燃焼させるような試合をするだろう。一日に何ゲームかを消化し、そして、最後の1ゲームが終了した時、その結果、勝利であろうと、敗北であろうと、

「これでよかった」

というプレーを観せてくれるだろう。

湯木博恵さん、過ぎ去った日々——青春とは、ふりかえってみれば、美しい想い出としてしか残らないものなのだ。あなたは、まだそれがいえるだけ、自分の青春——昭和23年11月15日生まれ、26才。あなたは、若くはないかもしれない。しかし、バドミントンに賭けた青春をまぎれもなく生きている。



ALL STEEL RACKET SunBatta TWIN SHAFT

究明され！
完成された！
S-74
ALL ROUND

プレーヤーが長い間求めていたオールスチールが誕生しました。
従来のオールスチールラケットの利点及び欠点をあらゆる角度から究明され改良をし今ここに完成され皆様の目の前に現われました。
ツインシャフトの採用によって、フレームとシャフトとのひねりが最小限に押えられ自由自在なショットを楽しむ事が出来るでしょう。
アタックによし、レシーブによし、それがS-74オールラウンドです。

SunBatta TOKYO

サンバタ

●●・連載・●●　〈第四回〉

家庭婦人コーチ体験談

バドミントン

徳重英樹
イラスト・鴨池昌憲

「三原則法」のほんの入口でいどの説明で、先号の紙数が切れてしまいました。頭の鋭い方ならお気づきでしょうが、一度サービスの番号、コート番号等を覚えておきますと、色々な基本練習を、番号で組み立てることができます。ダブルスのフォーメーション（陣型）も、この計算だけで、サービス側から平面的に見ただけで、二五〇通りの基本陣型を組み立てられます。レシーブ側からも同数の基本陣型が成り立ちます。

この基本陣型の全てを修得するか否かを別にしても、二五〇通り、全部やってみるだけでも知らぬ間に、ダブルスの動きを身につけることは可能です。

今から二〇年以上も前に、この方法が日本人の手で、考案されていたことを、私は素晴らしいと考えます。そうしてさらにこの「三原則法」よりも、もっと奥にあるバドミントンを、現実のものとして、実施できたらもっと素晴らしいことだと考えるのです。

ともかく現在は私のひそかな夢であるかもしれませんが、もっと高度なバドミントンを、安心して実施できる態勢づくりがなされることを、心底から、願っております。現状は教える立場の者にも、教わる立場の者にも、現在以上の技術追求は、生活という臣大な障壁にふさがれており、難かしく見えます。しかしながらその目的に至る過程での、ある段階までを実施する丈でも、プレーヤーにつきものの故障を減らすこと、未然に防ぐことは可能であると考えました。

まず、プレーに入る直前、ホームポジションでの構えを、図①のようにします。この構え方ですと、他の如何なる構え方よりも、「如何なるコースのシャトルに対しても、直線的に、ラケットの頭が、最短距離を走って届きます。」

この構えから、右利きの人は右足を、左利きの人は左足を、飛来するシャトルコックの方向に向って踏み出します。このときラケットの握りは、本誌六六号で図示した、「グリップの基本形①」になります。

私の体験からも、指導した家庭婦人の方々のプレーを見ても、さらに私のイメージからも、この構え、この振りが、一番無理なく、楽でありました。（このあとの説明はすべて、このように、イメージと実施例が一致したものと、お考えください。）

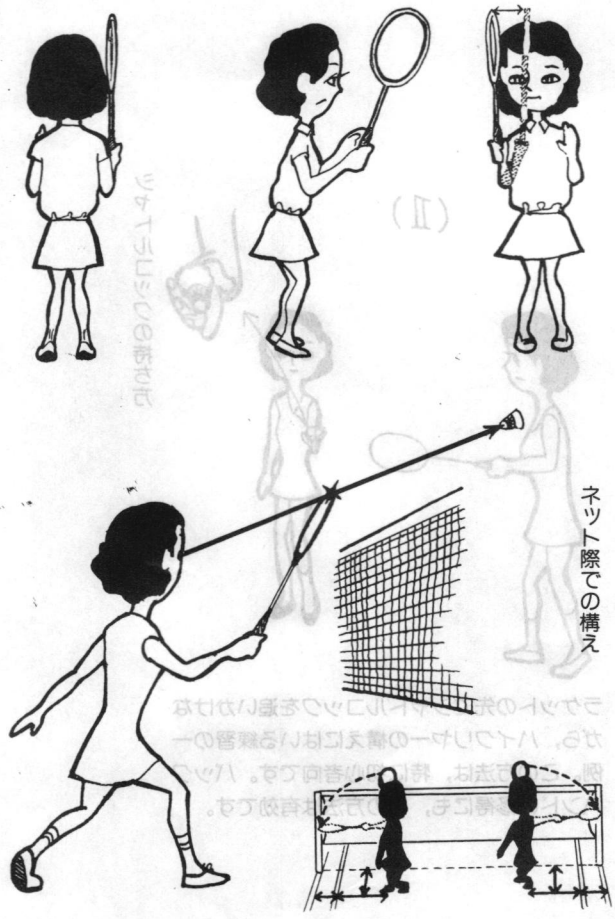
さてこの打球を待つときの構えは各種の補助練習に於ても、ダブルスの基本陣型修得の練習に於ても、プレーヤーの動作とラリーが早くなるにつれて、ごく自然に現われてまいります。そうしてこの構えでないと、全ての打球処理にタイミングが合わずミスに結びついてゆきます。

このような、コートの各部で打球を待つときのもっとも自然な構え方の、いくつかを図示します。

このような構え方でプレーしてみると、エネルギーの消耗が如何に少ないかがよくおわかりいただけるはずです。

楽をして勝とう、ということではありません。長続きのする、プレーを身につけよう、ということです。故障の少ないプレーヤーになってほしいのです。

練習量が多くなるほど、この型に近くなるはずです。底辺よりもトッププレーヤーほど、この型にならなければなりません。この型になるということは、型にはめるということではありません。この型が、バドミントンをする人間のもっとも素直な自然な姿なのであります。そうしてこれこそが「基本」と呼ばれる型でもあります。私の長いバドミントン人生を通して、頭の中に浮んでいるイメージそのものでもあるのです。これ以外の型は、どこかに無理があり、無駄があり、ムラがあります。そのような型のプレーヤーを見たとき、私は背筋に冷たいものを感じます。いつか必らず故障につながるように感じるのです。



ネット際での構え



フォアハンドでの構え

アウト



バックハンドでの構え

アウト

最初にラケットを握ったとき、身についたクセに、身体全体の動きを合わせて（意識しないで）しまっていることに気付いていないのかもしれません。

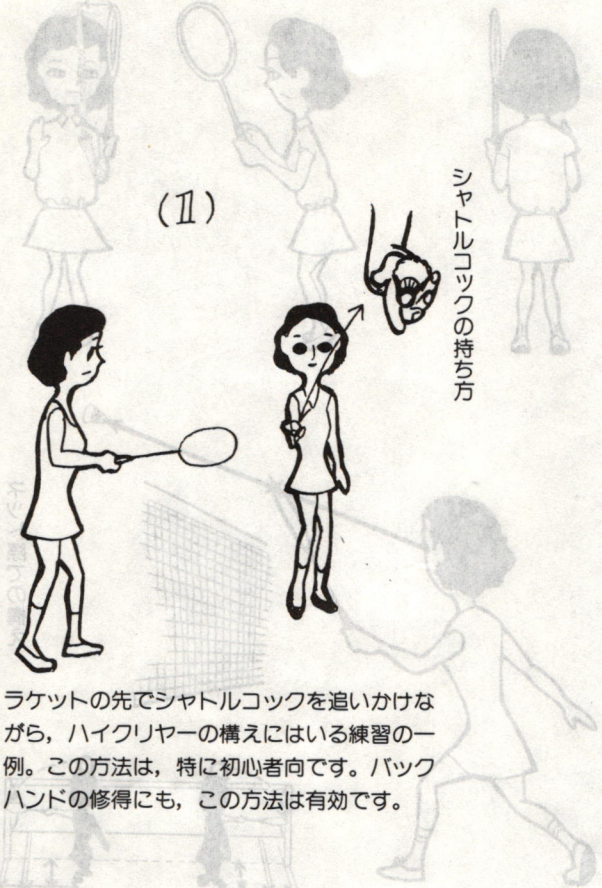
また、床が滑る体育館で、足下に気をとられながらプレーして、妙なクセを身につけてしまう場合もあります。

底辺に近づくほど、練習環境（施設、用具、指導者、時間、等）も恵まれなくなってまいりますから、日常生活がそのままコートの中に持ちこまれてまいります。せめて本誌を読まれたその日からでも、今のあなたのフォームに、一つでも、二つでも新らしい動きをつけ加える努力をしてください。ただしけっして無理をしてはなりません。みえを張ってはなりません。あくまでもあなた自身のペースでその努力を続けることです。

さて先に図示したコート各部での構え方を引きだす為に、沢山ある練習方法の中から次のようなやり方を採用致しました。

ラケットの長さを覚えてもらうために、床に落ちているシャトルをラケットですくったり、ラケットの両面を交互に使って、羽根つきの要領で、シャトルを高く、低く、打ち上げるやり方はすでに知られています。

はじめてラケットを持つ人にとって、「道具を持って、物を扱かうこと」は、大変難かしく感じるものです。私が指導した



ラケットの先でシャトルコックを追いかけながら，ハイクリヤーの構えにはいる練習の一例。この方法は，特に初心者向です。バックハンドの修得にも，この方法は有効です。



まっすぐ真上に、高く放り上げます。

シャトルを投げ上げる高さは約四メートル位です。投げ上げる人の腕の振り上げ速度、投げ上げられたシャトルコックが落ちてくる時間、これらが、打つ人のラケットのスピードに、ちょうどよく合います。初心者に「上打点」の打法をマスターさせるもっともよい方法です。

奥様方も例外ではありませんでした。過去に何かのスポーツを体験して来た人の場合には、それ程苦痛をともなわず練習にとけ込んで来ますが、そうでない人の場合にはやる前から、運動神経がないからだめだ、と思い込んでいる人が多く、何か特別なことをやらされるような恐れを抱いているようです。「そんなことはありません、同じ人間がやることなのです、努力しだいで、ある一定のレベルまで、誰れでも同じように到達できるのです。年令、性別等は余り関係ありません。眠っている神経を目覚めさせればよいのです。」と、私は申し上げたいのです。能力の個人差は、時間の差であるように私には思われます。全く同じ条件で、同じ環境だったら、長い間には、それ程大きい格差はなくなるはずなのです。

さて、ラケットの長さに慣れ手の先に物を持って、何かをあつかうことに慣れたところで、いよいよ、空中を、自分の意志とは無関係に飛行するシャトルコックをとらえる練習に入ります。(床のシャトルをすくったり、一人で羽根つきをすることは、自分の意志、自分のペースだけでやれる練習です。

二人一組になって、一人がラケットを持ち、もう一人がシャトルを持ちます。そうして、図のように、シャトルを持った人が、まっすぐ投げ上げたシャトルを、(ラケットを持っている人が)ラケットの先で追いかけて打つのです。この図は、シャトルを持っている人の立つ位置が間違っています。実際にはラケットを持っている人の、利き腕側に立ってください。(バックハンドの練習のときは、この図のような立ち方になりますが……。)この練習では、コートの中に、十二名位まで入れます。分単位に区切って、組み合わせを変えながらひとまわりします。

(鴨池先生より、シャトルを投げ上げる人の、シャトルの持ち方を読者の方々に見せる必要があって、シャトルを投げる人を正面に向けて書いたので、よく説明してください、とのことです。)この図の構えからシャトルを打ち終るまでの動きは、本誌六六号、三〇頁、「コートのうしろでかまえて、ハイクリアーを打ち、ホームポジションへ」で図示した連続動作と、同じになります。その一部を、もう一度拡大して図示します。しかし家庭婦人の方々にとって、初めにラケットを握ったときについたクセ、応用問題から入った方特有の持ち方を脱出することは、非常に負担のようでした。なに

か特別の型にはめられるような不安を感じるのでしょうか。かなりがん強に応用問題にしがみつく人の方が多く見受けられました。

おそらく、他のプレーヤーにも共通していることでしょう、今迄私がお目にかかった多くの指導者達が、「あのプレーヤーは勝負には強いが、どうも不自然だ」と、いって嘆息するのを耳にしてきましたが、そういうプレーヤーを見ると、きまって応用問題に固執していることがわかります。基本こそもっとも自然なバドミントンの動きであり、あたりまえのことであります。特殊技能でもなんでもありません。体に故障があったり、故障の後遺症でもない限り、だれにでも表現しうる形なのです。応用問題にしがみついている方が、よっぽど特殊技能なのであります。そのようなプレーヤーに限って「コーチの教え方が悪いから、故障しちゃった。」などと口ばしります。

せめてコートの中に入ったときぐらい、素直な気持で、シャトルコックに気持を集中させて欲しいと思います。また指導者は、そういう方向にプレーヤーを導びいてゆくべきだと考えます。

さて話がまたまた横道にそれました。

前述のように一人がシャトルを投げて、一人が打つ……、この方法で、全ての打法の練習ができることにお気づきのことと思います。初心者同志のラリーの応酬はお互いにコントロールが無いのですから、長続きせず、練習にもなりません。

シャトルを投げる人、打つ人の呼吸が合えば、短時間に、かなりの本数をこなせます。

教わる人の数が多くなるほど、コーチが、一人一人を相手にできる時間が短かくなります。

コーチとプレーヤーの打ち合いも必要ですが、限られた時間内で、プレーヤー一人当りの練習量を、できるだけふやすためには、この種の練習方法をできるだけ多用した方が、より効果的なのです。余談ですが、このやりかたで、幼児にやらせたところ、わずか五分位で、器用にシャトルを打ち返せるようになったことを、御報告しておきましょう。

さて次に、ひととおりシャトルを打てるようになったら、ネットをはさんで、図のような、ラリーの応酬に入ります。一見ドライブに見えますが、お互いに、ゆるい球を打たせます。

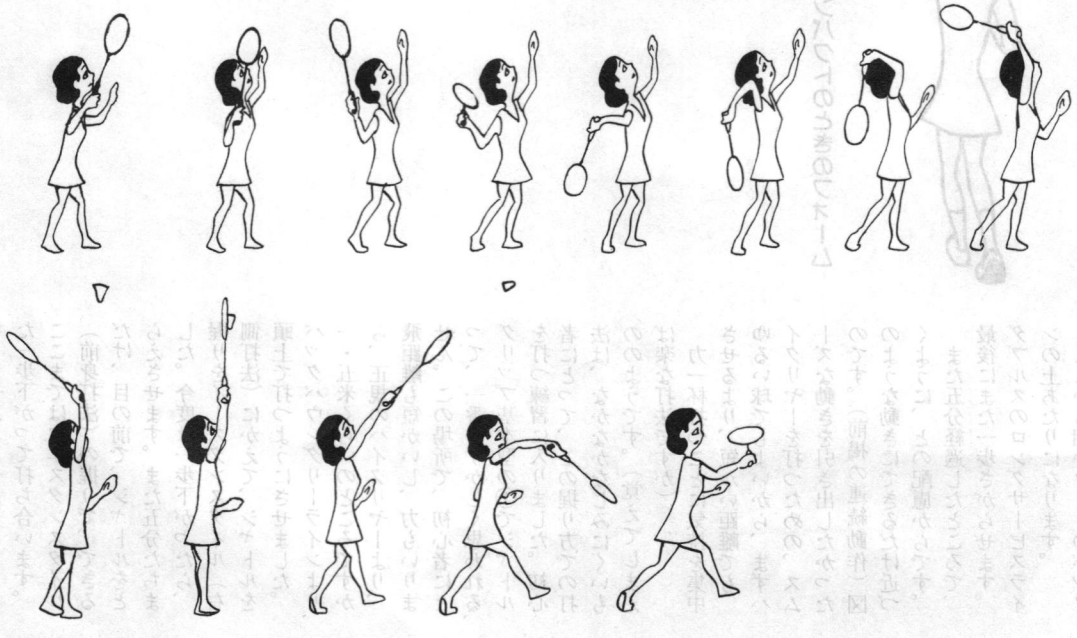
バドミントンのプレーで、一番こなしにくいのが、実は、ネット際の打ち合いであることを、慣れた方なら、知っておられることでしょう。それだけに、この部分の球の処理を、身につけると、バドミントンが、より面白くなるものです。

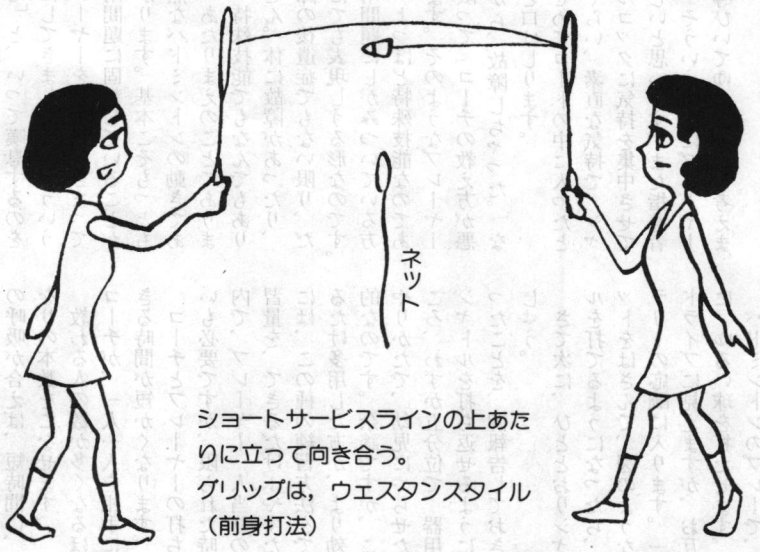
また運動不足で、体がかたくなっている社会人の初心者にとって、コートの中で、いきなり強打の応酬をやらせることは、考えものです。力まかせにシャトルをひっぱたくときの快感も、下手をすると故障の原因になります。充分訓練されたプレーヤーでさえ、体がほぐれるまでウォームアップを必要とするのです。賢明な読者の方々には、私の申し上げる意図を、御理解いただけると考えます。

上級者でも、一年もバドミントンから離れていると、ハイクリヤーも、強打の部類に属することに気付かれるはずです。

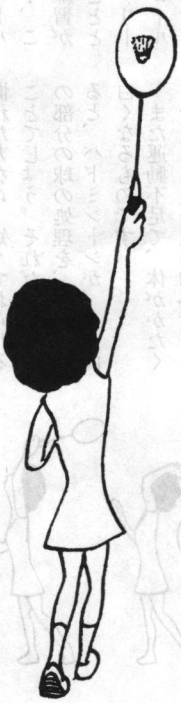
不安定なシャトルを使ってのラリーに慣れることと、ネットの高さ、ネットと、自分自身との距離を、自然につかむ、などの意味も含めて、まず、この練習方法から、打ち合いの第一歩を踏み出してもらいました。

五分間打ち合ってから、一歩うしろに下がり、その場所で、再び五分間打ち合います。二人の間隔が、はなれるに従って、打球にスピードをつけなければ





ショートサービスラインの上あたりに立って向き合う。
グリップは，ウエスタンスタイル（前身打法）



うしろから見た、ハイクリヤーのインパクトのときのフォーム

なりません。五分たったら、また一歩下がって打ち合います。ここまではウエスタンスタイル（前身打法）の握りで、できるだけ、目の前で、シャトルをとらえさせます。また五分たちました。今度は一歩下がったら、握りをイースタンスタイル（右側打法）にかえて、シャトルを頭上で打つようにさせました。バックバウンダリーラインより、一・五米くらいのところですから、正規のハイクリヤーより、飛距離も短かいし、力もいりません。この場所で、初心者にとって、一番むずかしく思われる、グリップ基本型の①でシャトルを打つ練習に入りました。初心者にとって、この握り方での打法は、なかなかなじみにくいもののようです。（覚えてしまえば楽な打法ですが）

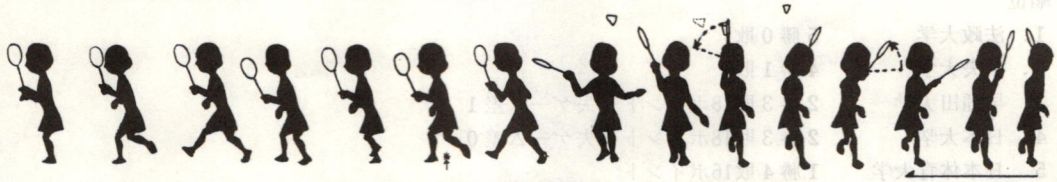
力一杯打つことに気持を集中させるより、短かい距離でも、ゆるい球でもよいから、まずハイクリヤーを打つための、スムーズな動きを引き出したかったのです。（前掲の連続動作）図のような動きにできるだけ近づくように、との配慮からです。

また五分経過したところで、最後にまた一歩さがらせます。ダブルスのロングサービスラインの上あたりになります。

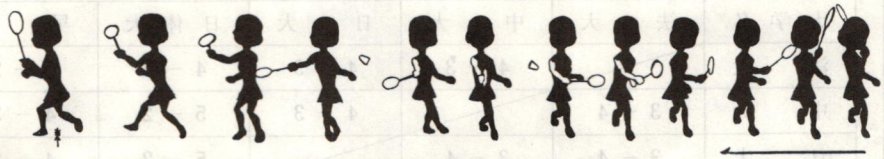
ここから相手コートのバック



ホームポジションから，レフトコートのうしろのコーナーへ



ハイバックハンドでシャトルを打ち，ホームポジションへ



サイドアームストローク（左側打法，中打点）でシャトルを打ち，同じくホームポジションへ



ハイバックハンドでのインパクトのときのフォーム

バウンダリーラインまでシャトルが届くように、ハイクリヤーを打てるようになれば、しめたものです。

ハイクリヤーを、狙った場所へ正確に打てるようになると、あとは次から次に色々な練習方法をこなせるようになります。

ネットの近くから、コートのうしろへ、コートのうしろからネットの近くへ、連続動作を覚える前の段階での練習です。

同じやり方で、バックハンドの打法も、平行して行ないました。女性だから、年輩だから、力が弱いから、などの理由から、バックハンドの練習は、フォアハンドにくらべると、敬遠されがちです。バドミントンのラケットが、両面使えるようになっているのですから、フォアハンドもバックハンドも、できることなら、同じ分量の練習をすべきだと考えます。バックハンドに頼るのがある種のなまけ心につながる、とする意見には賛成しかねるのです。

バックを使いこなせないプレーヤーは、それだけで大きな穴を持っています。

バックハンドを、身につけられるかどうかは別にして、私は練習の中に、バックハンドを使わなければならないような、練習方法を、多用いたしました。

―以下次号―



昭和50年度関東学生春季リーグ戦　　5月7，8，14，15，16，17日

男子は法大，女子は日女体大が全勝

慶応大学は再び二部へ無念の降格

男子1部

順位

1．法政大学　5勝0敗
2．中央大学　4勝1敗
3．早稲田大学　2勝3敗18ポイント得失ゲーム差1
4．日本大学　2勝3敗18ポイント得失ゲーム差0
5．日本体育大学　1勝4敗16ポイント
6．慶応義塾大学　1勝4敗7ポイント

大学名	法大	中大	日大	日体大	早大	慶大
法大		4－3	4－3	4－3	5－2	7－0
中大	3－4		4－3	5－2	4－3	6－1
日大	3－4	3－4		5－2	4－3	3－4
日体大	3－4	2－5	2－5		3－4	6－1
早大	2－5	3－4	3－4	4－3		6－1
日大	0－7	1－6	4－3	1－6	1－6	

女子1部

順位

1．日本女子体育大学　5勝0敗
2．日本体育大学　4勝1敗
3．東京女子体育大学　3勝2敗
4．青山学院大学　2勝3敗
5．大妻女子大学　1勝4敗
6．早稲田大学　0勝5敗

大学名	日体大	日女体	東女体	青学大	早大	大妻大
日体大		1－3	4－1	4－1	5－0	5－0
日女体	3－1		4－1	4－1	5－0	5－0
東女体	1－4	1－4		3－0	5－0	4－1
青学大	1－4	1－4	0－3		5－0	5－0
早大	0－5	0－5	0－5	0－5		2－3
大妻大	0－5	0－5	1－4	0－5	3－2	

第一日目　男子一部

法政大学　対　日本体育大学

S1	中井	0－2	須藤
S2	仲尾	0－2	栗原
D1	中井・辻	2－0	竹林・舛田
D2	下田・仲尾	0－2	須藤・栗原
D3	米山・原	2－0	池田・出石
S3	辻	2－0	竹林
S4	原	2－1	池田
合計		4－3	

中央大学　対　早稲田大学

S1	山本	1－2	松口
S2	西村	2－1	茶谷
D1	三の宮・秋葉	0－2	折井・松口
D2	山本・長谷川	2－0	小中・茶谷
D3	大場・西村	2－0	高木・渡辺
S3	中原	0－2	折井
S4	大場	2－1	高木
合計		4－3	

日本大学　対　慶応大学

S1	藤木	0－2	茂木
S2	土田	2－1	梶田
D1	藤木・小山	1－2	茂木・宮崎
D2	土田・伊東	2－0	梶田・柳本
D3	中谷・高橋	2－0	玉利・清水
S3	亀里	0－2	宮崎
S4	山本	1－2	柳本
合計		3－4	

第二日目　男子一部

法政大学　対　慶応義塾大学

S1	中井	2－1	梶田
S2	米山	2－1	茂木
D1	中井・辻	2－0	梶田・柳本
D2	米山・原	2－0	玉利・清水
D3	下田・仲尾	2－0	茂木・宮崎
S3	辻	2－0	柳本
S4	原	2－1	宮崎
合計		7－0	

中央大学　対　日本体育大学

S1	長谷川	1－2	栗原
S2	山本	2－0	須藤
D1	大場・西村	2－0	池田・出石
D2	三の宮・秋葉	1－2	須藤・栗原
D3	山本・長谷川	2－0	竹林・舛田
S3	西村	2－0	池田
S4	大場	2－0	竹林
合計		5－2	

日本大学　対　早稲田大学

S1	土田	2－1	松口
S2	藤木	1－2	千葉
D1	土田・伊東	2－0	折井・松口
D2	中谷・高橋	0－2	高木・渡辺
D3	藤木・小山	2－0	小中・茶谷
S3	亀里	0－2	折井
S4	中谷	2－0	高木
合計		4－3	

第一日目　女子一部

日本体育大学　対　青山学院大学

S1	高瀬	2－0	白玖
S2	日山	2－0	稲垣
D1	佐伯・古谷	2－0	白玖・坂本
D2	日山・桜井	0－2	稲垣・門脇
S3	桜井	0－2	坂本
合計		4－1	

日本女子体育大学　対　早稲田大学

S1	林	2－0	今村
S2	榊谷	2－0	大江
D1	大場・村田	2－0	大江・篠原
D2	平野・山口	2－0	徳永・椎木
S3	原田	2－0	篠原
合計		5－0	

東京女子体育大学　対　大妻女子大学

S1	長沢	2－0	若海
S2	沢内	2－0	内坂
D1	長沢・長谷川	2－0	若海・内坂
D2	有賀・加賀美	1－2	平野・加藤
S3	鷹鴎	2－0	平野
合計		4－1	

第二日目　女子一部

日本体育大学　対　大妻女子大学

S1	佐円	2－0	若海
S2	日向野	2－0	内坂
D1	佐円・石井	2－0	加藤・平野
D2	石田・日向野	2－0	内坂・若海
S3	石井	2－0	平野
合計		5－0	

日本女子体育大学　対　青山学院大学

S1	千葉	2－0	白玖
S2	松田	0－2	坂本
D1	近藤・渡辺	2－0	松村・橋本
D2	千葉・松田	2－0	白玖・坂本
S3	小寺	2－1	稲垣
合計		4－1	

東京女子体育大学　対　早稲田大学

S1	沢内	2－0	今村
S2	長沢	2－0	大江
D1	矢口・沢内	2－0	大江・篠原
D2	大川・長沢	2－0	徳永・椎木
S3	鷹鴎	2－0	篠原
合計		5－0	

第三日目　男子一部

法政大学　対　早稲田大学

S1	中井	0－2	松口
S2	原	0－2	千葉
D1	中井・辻	2－0	松口・折井
D2	下田・中尾	2－0	千葉・岩崎
D3	米山・原	2－0	高木・渡辺
S3	辻	2－0	折井
S4	米山	2－1	丸山
合計		5－2	

中央大学　対　日本大学

S1	長谷川	1－2	土田
S2	山本	2－0	亀里
D1	三の宮・秋葉	0－2	土田・伊東
D2	大場・西村	2－1	藤木・小山
D3	山本・長谷川	2－0	中谷・高橋
S3	西村	2－0	藤木
S4	栗	0－2	中谷
合計		4－3	

日本体育大学　対　慶応義塾大学

S1	栗原	2－0	柳本
S2	須藤	2－1	梶田
D1	池田・出石	2－0	茂木・宮崎
D2	須藤・栗原	2－0	玉利・清水
D3	竹林・舛田	2－0	梶田・柳本
S3	出石	2－1	宮崎
S4	工藤	0－2	茂木
合計		6－1	

第四日目　男子一部

法政大学　対　日本大学

S1	中井	0－2	土田
S2	仲尾	2－0	中谷
D1	中井・辻	2－0	小山・藤木
D2	米山・原	2－0	土田・伊東
D3	下田・仲尾	1－2	中谷・高橋
S3	辻	2－0	福田
S4	後藤	0－2	藤木
合計		4－3	

中央大学　対　慶応義塾大学

S1	長谷川	0－2	宮崎
S2	山本	2－0	清水
D1	大場・西村	2－0	梶田・柳本
D2	三の宮・秋葉	2－1	茂木・宮崎
D3	山本・長谷川	2－0	玉利・清水
S3	西村	2－1	梶田
S4	坂井	2－0	梶田（和）
合計		6－1	

日本体育大学　対　早稲田大学

S1	舛田	0－2	松口
S2	須藤	2－0	丸山
D1	竹林・舛田	1－2	松口・折井
D2	須藤・栗原	2－0	小中・茶谷
D3	池田・出石	0－2	高木・渡辺
S3	栗原	2－1	折井
S4	竹林	1－2	千葉
合計		3－4	

第三日目　女子一部

日本体育大学　対　早稲田大学

S1	桜井	2－0	今村
S2	佐円	2－0	篠原
D1	高瀬・松田	2－0	大江・篠原
D2	佐円・石井	2－0	徳永・今村
S3	日向野	2－0	大江
合計		5－0	

日本女子体育大学　対　東京女子体育大学

S1	千葉	1－2	矢口
S2	林	2－0	市村
D1	近藤・渡辺	2－1	矢口・沢内
D2	千葉・松田	2－0	市村・当摩
S3	近藤	2－0	沢内
合計		4－1	

青山学院大学　対　大妻女子大学

S1	白玖	2－0	若海
S2	坂本	2－0	内坂
D1	松村・橋本	2－0	加藤・平野
D2	稲垣・門脇	2－0	内坂・若海
S3	橋本	2－0	平野
合計		5－0	

第四日目　女子一部

日本体育大学　対　東京女子体育大学

S1	高瀬	2－0	矢口
S2	井上	2－0	沢内
D1	佐伯・古谷	2－0	市村・当摩
D2	日山・桜井	0－2	矢口・沢内
S3	日山	2－0	当摩
合計		4－1	

日本女子体育大学　対　大妻女子大学

S1	松田	2－0	若海
S2	桝谷	2－0	平野
D1	大場・村田	2－0	内坂・若海
D2	原田・小寺	2－0	平野・加藤
S3	大場	2－0	内坂
合計		5－0	

青山学院大学　対　早稲田大学

S1	白玖	2－0	大江
S2	坂本	2－0	篠原
D1	橋本・松村	2－0	徳永・今村
D2	白玖・坂本	2－0	大江・篠原
S3	橋本	2－0	今村
合計		5－0	

第五日目　男子一部

	法政大学	対	中央大学	日本大学	対	日本体育大学
S1	中井 2−1	山本		中谷 2−0	舛田	
S2	仲尾 2−1	西村		土田 2−0	竹林	
D1	米山・原 2−0	三の宮・秋葉		中谷・高橋 2−1	須藤・栗原	
D2	中井・辻 0−2	山本・長谷川		土田・伊東 2−0	池田・出石	
D3	下田・仲尾 0−2	大場・西村		藤木・小山 2−1	竹林・舛田	
S3	辻 0−2	長谷川		福田 0−2	栗原	
S4	原 2−1	大場		藤木 0−2	須藤	
	合計 4−3			合計 5−2		

	早稲田大学	対	慶応義塾大学			
S1	千葉 0−2	茂木				
S2	松口 2−0	宮崎				
D1	小中・茶谷 2−0	梶田・柳本				
D2	折井・松口 2−0	玉利・清水				
D3	高木・渡辺 2−1	茂木・宮崎				
S3	折井 2−0	梶田				
S4	茶谷 2−1	柳本				
	合計 6−1					

第五日目　女子一部

	日本女子体育大学	対	東京女子体育大学	日本体育大学	対	青山学院大学
S1	古谷 0−2	千葉		矢口 2−0	白玖	
S2	井上 2−0	林		沢内 2−0	坂本	
D1	西尾・秋本 1−2	近藤・渡辺		市村・郎摩 2−0	松村・橋本	
D2	古谷・佐伯 1−2	千葉・松田		矢口・沢内 打ち切り	白玖・坂本	
S3	谷 打ち切り	近藤		当摩 打ち切り	稲垣	
	合計 1−3			合計 3−0		

	早稲田大学	対	大妻女子大学			
S1	篠原 0−2	内坂				
S2	大江 2−0	若海				
D1	当大江・篠原 2−0	加藤・平野				
D2	徳永・今村 0−2	内坂・若海				
S3	今村 0−2	平野				
	合計 2−3					

ニチイ三田

平均年令27才のヤングパワー。

(045)651−2020

●横浜市中区石川町2-84

二部は青学大と新進群馬大が制す

ともに一部への昇格をはたす

男子２部

順位

1．青山学院大学　５勝０敗
2．関東学院大学　４勝１敗
3．大東文化大学　３勝２敗
4．専修大学　２勝３敗
5．立教大学　１勝４敗
6．千葉大学　０勝５敗

大学名	青学大	関学大	千葉大	立大	大東大	専大
青学大		4－2	5－2	6－1	6－1	6－1
関学大	2－4		5－2	4－3	5－2	4－3
千葉大	2－5	2－5		2－4	3－4	2－5
立大	1－6	3－4	4－2		0－7	3－4
大東大	1－6	2－5	4－3	7－0		4－0
専大	1－6	3－4	5－2	4－3	0－4	

女子２部

順位

1．群馬大学　５勝０敗
2．明治学院大学　４勝１敗
3．国学院大学　３勝２敗
4．共立女子大学　２勝３敗
5．昭和女子大学　１勝４敗
6．千葉大学　０勝５敗

大学名	昭女大	共立大	国学院	明学大	千葉大	群大
昭女大		2－3	2－3	1－4	3－2	2－3
共立大	3－2		0－5	1－4	3－2	2－3
国学院	3－2	5－0		2－3	5－0	2－3
明学大	4－1	4－1	3－2		4－1	2－3
千葉大	2－3	2－3	0－5	1－4		2－3
群大	3－2	3－2	3－2	3－2	3－2	

第一日目　男子二部

青山学院大学　対　立教大学

S1	笠野	2−0	鈴木
S2	下山	2−0	下平
D1	笠野・村元	2−0	清水・井上
D2	遠藤・下山	2−0	鈴木・伊藤
D3	畑中・滝本	2−0	下平・鈴木
S3	村元	0−2	清水
S4	遠藤	2−0	井上
合計	6−1		

関東学院大学　対　大東文化大学

S1	松浦	2−1	松浦
S2	後藤	2−0	後藤
D1	勝浦・井沢	2−1	佐々木・大野
D2	大浦・柴田	2−0	間山・後藤
D3	小林・熊谷	2−0	松浦・市川
S3	佐々木	0−2	佐々木
S4	井沢	1−2	市川
合計	5−2		

千葉大学　対　専修大学

S1	阿部	2−0	小田
S2	平野	0−2	三井
D1	河合・浜野	0−2	肥谷・三竿
D2	阿部・小林	2−0	三井・鈴木
D3	渋谷・平野	0−2	小泉・小田
S3	小林	1−2	鈴木
S4	渋谷	0−2	小泉
合計	2−5		

第二日目　男子二部

青山学院大学　対　専修大学

S1	笠野	2−0	小田
S2	下山	2−0	鈴木
D1	笠野・村元	2−0	肥谷・三竿
D2	遠藤・下山	2−0	小泉・小田
D3	畑中・滝本	0−2	三井・鈴木
S3	村元	2−1	小泉
S4	遠藤	2−0	三井
合計	6−1		

関東学院大学　対　立教大学

S1	小林	2−0	清水
S2	大浦	0−2	井上
D1	小林・熊谷	2−0	下平・鈴木哲
D2	勝浦・井沢	1−2	清水・井上
D3	柴田・大浦	2−0	鈴木節・伊藤
S3	熊谷	2−0	下平
S4	柴田	1−2	鈴木哲
合計	4−3		

千葉大学　対　大東文化大学

S1	阿部	2−1	松浦
S2	小林	2−1	佐々木
D1	河合・浜野	0−2	松浦・井川
D2	渋谷・平野	1−2	間山・小田島
D3	阿部・小林	2−0	佐々木・大野
S3	渋谷	0−2	市川
S4	平野	0−2	大野
合計	3−4		

第一日目　女子二部

昭和女子大学　対　明治学院大学

S1	管野	0−2	太田
S2	高野	2−0	杉山
D1	勝見・高橋	0−2	斎藤・志村
D2	高野・管野	0−2	太田・杉山
S3	高橋	0−2	斎藤
合計	1−4		

共立女子大学　対　千葉大学

S1	友尻	1−2	道下
S2	岡崎	2−0	三ツ木
D1	岡崎・中山	2−0	山下・森田
D2	勝又・岩本	0−2	道下・三ツ木
S3	中山	2−0	山下
合計	3−2		

国学院大学　対　群馬大学

S1	田中	0−2	池田
S2	鈴木	0−2	神山
D1	田中・山倉	0−2	神山・五十嵐
D2	鈴木・筑後	2−0	須藤・池田
S3	筑後	2−0	五十嵐
合計	2−3		

第二日目　女子二部

昭和女子大学　対　群馬大学

S1	高野	2−0	五十嵐
S2	管野	0−2	神山
D1	高野・高橋	2−1	須藤・池田
D2	勝見・管野	1−2	神山・五十嵐
S3	高橋	0−2	池田
合計	2−3		

共立女子大学　対　明治学院大学

S1	岡崎	2−0	斎藤
S2	友尻	0−2	太田
D1	岡崎・中山	0−2	太田・杉山
D2	勝又・岩本	0−2	斎藤・志村
S3	中山	1−2	杉山
合計	1−4		

国学院大学　対　千葉大学

S1	鈴木	2−0	三ツ木
S2	筑後	2−0	道下
D1	田中・山倉	2−0	山下・森田
D2	筑後・鈴木	2−0	道下・三ツ木
S3	田中	2−1	山下
合計	5−0		

第三日目　男子二部

青山学院大学　対　大東文化大学

S1	笠野	2－0	間山
S2	下山	2－1	佐々木
D1	笠野・村元	2－0	松瀬・市川
D2	遠藤・下山	2－0	間山・小田島
S3	村元	2－0	松浦
S4	遠藤	2－1	市川

合計　6－1

関東学院大学　対　千葉大学

S1	小林	0－2	阿部
S2	熊谷	2－1	小林
D1	勝浦・井沢	2－0	河合・浜野
D2	大浦・柴田	0－2	阿部・小林
S3	熊谷・小林	2－0	渋谷・平野
S4	竜崎	2－1	三浦

合計　5－2

立教大学　対　専修大学

S1	井上	2－0	小田
S2	清水	2－0	小泉
D1	下平・鈴木哲	0－2	小泉・小田
D2	鈴木節・伊藤	0－2	三井・鈴木
S3	清水・井上	2－0	肥谷・三竿
S4	鈴木哲	0－2	三井

合計　3－4

第四日目　男子二部

青山学院大学　対　千葉大学

S1	笠野	1－2	阿部
S2	下山	2－0	小林
D1	笠野・村元	2－0	河合・浜野
D2	遠藤・下山	2－0	渋谷・平野
D3	畑中・滝本	0－2	阿部・小林
S3	村元	2－0	渋谷
S4	遠藤	2－0	平野

合計　5－2

関東学院大学　対　専修大学

S1	熊谷	2－0	鈴木
S2	小林	2－0	小田
D1	勝浦・井沢	2－0	肥谷・三竿
D2	熊谷・小林	2－0	小泉・小田
D3	柴田・小山	0－2	鈴木・三井
S3	井沢	1－2	小泉
S4	柴田	0－2	三井

合計　4－3

立教大学　対　大東文化大学

S1	下平	0－2	佐々木
S2	清水	1－2	市川
D1	鈴木・伊藤	0－2	佐々木・大野
D2	清水・井上	0－2	松浦・市川
S3	下平・鈴木	0－2	後藤・宮内
S4	井上	1－2	松浦
	鈴木哲	1－2	大野

合計　0－7

第三日目　女子二部

昭和女子大学　対　千葉大学

S1	高野	2－0	三ツ木
S2	高橋	0－2	道下
D1	勝見・菅野	0－2	森田・山下
D2	高野・高橋	2－0	三ツ木・道下
S3	菅野	2－1	山下

合計　3－2

共立女子大学　対　国学院大学

S1	岡崎	1－2	鈴木
S2	岩本	0－2	田中
D1	岡崎・中山	1－2	鈴木・筑後
D2	岩本・勝又	0－2	田中・山倉
S3	中山	0－2	筑後

合計　0－5

明治学院大学　対　群馬大学

S1	杉山	0－2	池田
S2	太田	2－0	飯野
D1	斎藤・志村	0－2	神山・池田
D2	太田・杉山	2－0	飯野・高木
S3	斎藤	0－2	神山

合計　2－3

第四日目　女子二部

昭和女子大学　対　国学院大学

S1	高野	2－0	田中
S2	菅野	0－2	鈴木
D1	勝見・菅野	0－2	筑後・田中
D2	高野・高橋	2－0	鈴木・山倉
S3	高橋	0－2	筑後

合計　2－3

共立女子大学　対　群馬大学

S1	岡崎	0－2	神山
S2	中山	2－0	飯野
D1	勝又・岩本	0－2	神山・池田
D2	岡崎・中山	2－0	須藤・小谷
S3	友尻	0－2	池田

合計　2－3

明治学院大学　対　千葉大学

S1	太田	2－0	三ツ木
S2	杉山	2－0	山下
D1	斎藤・志村	2－1	三ツ木・道下
D2	太田・杉山	2－0	山下・森田
S3	斎藤	0－2	道下

合計　4－1

昭和50年度関東大学春季リーグ戦入替戦結果報告

男子

1－2部	慶応義塾大学(降格)	2－4	青山学院大学(昇格)
2－3部	千葉大学(残留)	4－1	明治大学(残留)
3－4部	明治学院大学(降格)	2－5	埼玉大学(昇格)
4－5部	国学院大学(降格)	3－5	東洋大学(昇格)
5－6部	東京電気大学Ⅰ部(降格)	3－5	東京農業大学(昇格)
6－7部	武蔵大学(降格)	1－5	東京農工大学(昇格)
7－8部	千葉商科大学(残留)	5－3	学習院大学(残留)
8－9部	都留文科大学(降格)	2－5	電気通信大学(昇格)
9－10部	工学院大学(降格)	棄権	東京水産大学(昇格)

女子

1－2部	早稲田大学(降格)	0－3	群馬大学(昇格)
2－3部	千葉大学(降格)	0－3	埼玉大学(昇格)
3－4部	成蹊大学(降格)	2－3	お茶の水女子大学(昇格)
4－5部	杉野女子大学(降格)	0－3	武蔵大学(昇格)
5－6部	東京経済大学(降格)	1－3	武蔵野美術大学(昇格)
6－7部	富士短期大学(降格)	1－3	女子美術大学(昇格)
7－8部	桐朋学園大学短期大学(降格)	棄権	駒沢大学(昇格)
8－9部	東京女子大学(降格)	棄権	清泉女子大学(昇格)
9－10部	山梨大学(降格)	棄権	青山学院女子短期大学(昇格)
10－11部	白梅学園短期大学(降格)	0－3	立正女子大学(昇格)

第五日目　男子二部

	青山学院大学		関東学院大学
S1	笠野	1－2	熊谷
S2	下山	2－1	小林
D1	笠野・村元	2－0	勝浦・井沢
D2	遠藤・下山	2－0	熊谷・小林
D3	畑中・滝本	1－2	大浦・柴田
S3	村元	2－0	勝浦
S4	遠藤	打ち切り	柴田
合計		4－2	

	千葉大学		大東文化大学
S1	阿部	2－1	清水
S2	平野	0－2	下平
D1	渋谷・平野	0－2	清水・井上
D2	河合・浜野	0－2	下平・鈴木
D3	阿部・小林	2－0	鈴木・伊藤
S3	渋谷	0－2	井上
S4	小林	打ち切り	鈴木
合計		2－4	

	対立教大学		専修大学
S1	佐々木	2－0	小田
S2	市川	2－0	三井
D1	佐々木・大野	2－0	三井・鈴木
D2	松浦・市川	2－0	肥谷・三竿
D3	後藤・間山	打ち切り	小泉・小田
S3	松浦	打ち切り	鈴木
S4	大野	打ち切り	小泉
合計		4－0	

第五日目　女子二部

	昭和女子大学		共立女子大学
S1	菅野	2－1	友尻
S2	高野	1－2	岡崎
D1	菅野・勝見	0－2	岡崎・中山
D2	高野・高橋	2－0	勝又・岩井
S3	高橋	0－2	中山
合計		2－3	

	国学院大学		明治学院大学
S1	鈴木	0－2	太田
S2	筑後	2－1	杉山
D1	田中・山倉	0－2	斎藤・志村
D2	鈴木・筑後	2－1	太田・杉山
S3	田中	0－2	斎藤
合計		2－3	

	千葉大学		群馬大学
S1	三ツ木	0－2	池田
S2	道下	2－0	五十嵐
D1	山下・森田	0－2	神山・池田
D2	三ツ木・道下	2－0	飯野・高木
S3	山下	0－2	神山
合計		2－3	

昭和50年度春季リーグ戦結果報告（男子）

1部
1位 法政大学 5勝0敗
2位 中央大学 4勝1敗
3位 早稲田大学 2勝3敗
4位 日本大学 2勝3敗
5位 日本体育大学 1勝4敗
6位 慶応義塾大学 1勝4敗

2部
1位 青山学院大学 5勝0敗
2位 関東学院大学 4勝1敗
3位 大東文化大学 3勝2敗
4位 専修大学 2勝3敗
5位 立教大学 1勝4敗
6位 千葉大学 0勝5敗

3部
1位 明治大学 5勝0敗
2位 一橋大学 4勝1敗
3位 東京大学 3勝2敗
4位 神奈川大学 2勝3敗
5位 山梨大学 1勝4敗
6位 明治学院大学 0勝5敗

4部
1位 埼玉大学 5勝0敗
2位 東京経済大学 4勝1敗
3位 東京理科大学 2勝3敗
4位 東海大学 2勝3敗
5位 成蹊大学 2勝3敗
6位 国学院大学 0勝5敗

5部
1位 東洋大学 5勝0敗
2位 横浜国立大学 4勝1敗
3位 東京都立大学 3勝2敗
4位 国士館大学 2勝3敗
5位 独協大学 1勝4敗
6位 東京電機大学I部 0勝5敗

6部
1位 東京農業大学 5勝0敗
2位 茨城大学 3勝2敗
3位 東京工業大学 2勝3敗
4位 横浜市立大学 2勝3敗
5位 東京学芸大学 2勝3敗
6位 武蔵大学 1勝4敗

7部
1位 東京農工大学 5勝0敗
2位 武蔵工業大学 4勝1敗
3位 成城大学 2勝3敗
4位 明星大学 2勝3敗
5位 高崎経済大学 1勝4敗
6位 千葉商科大学 1勝4敗

8部
1位 学習院大学 4勝1敗
2位 玉川大学 3勝2敗
3位 武蔵野美術大学 3勝2敗
4位 駒沢大学 3勝2敗
5位 慈恵医科大学 2勝3敗
6位 都留文科大学 0勝5敗

9部
1位 電気通信大学 5勝0敗
2位 創価大学 4勝1敗
3位 東京電機大学II部 3勝2敗
4位 東京外国語大学 2勝3敗
5位 横浜商科大学 1勝4敗
6位 工学院大学 0勝5敗

10部
1位 東京水産大学 2勝0敗
2位 富士短期大学 1勝1敗
3位 武蔵野音楽大学 0勝2敗
東京商船大学 休部
足利工業大学 休部

昭和50年度春季リーグ戦結果報告（女子）

1部
1位 日本女子体育大学 5勝0敗
2位 日本体育大学 4勝1敗
3位 東京女子体育大学 3勝2敗
4位 青山学院大学 2勝3敗
5位 大妻女子大学 1勝4敗
6位 早稲田大学 0勝5敗

2部
1位 群馬大学 5勝0敗
2位 明治学院大学 4勝1敗
3位 国学院大学 3勝2敗
4位 共立女子大学 2勝3敗
5位 昭和女子大学 1勝4敗
6位 千葉大学 0勝5敗

3部
1位 埼玉大学 5勝0敗
2位 東京学芸大学 3勝2敗
3位 学習院大学 3勝2敗
4位 慶応義塾大学 3勝2敗
5位 日本女子大学 1勝4敗
6位 成蹊大学 0勝5敗

4部
1位 お茶の水女子大学 5勝0敗
2位 玉川大学 4勝1敗
3位 東洋大学 3勝2敗
4位 国士館大学 2勝3敗
5位 明治大学 1勝4敗
6位 杉野女子大学 0勝5敗

5部
1位 武蔵大学 5勝0敗
2位 都留文科大学 4勝1敗
3位 津田塾大学 3勝2敗
4位 東京都立大学 2勝3敗
5位 独協大学 1勝4敗
6位 東京経済大学 0勝5敗

6部
1位 武蔵野美術大学 4勝1敗
2位 横浜市立大学 4勝1敗
3位 東京理科大学 3勝2敗
4位 東京家政大学 3勝2敗
5位 立教大学 1勝4敗
6位 富士短期大学 0勝5敗

7部
1位 女子美術大学 3勝0敗
2位 明星大学 2勝1敗
3位 横浜国立大学 1勝2敗
4位 神奈川大学 0勝3敗
成城大学 休部
桐朋大学 休部

8部
1位 駒沢大学 4勝1敗
2位 東京農業大学 4勝1敗
3位 東京女子医科大学 3勝2敗
4位 武蔵野音楽大学 2勝3敗
5位 東京女子大学短期大学 2勝3敗
6位 東京女子大学 0勝5敗

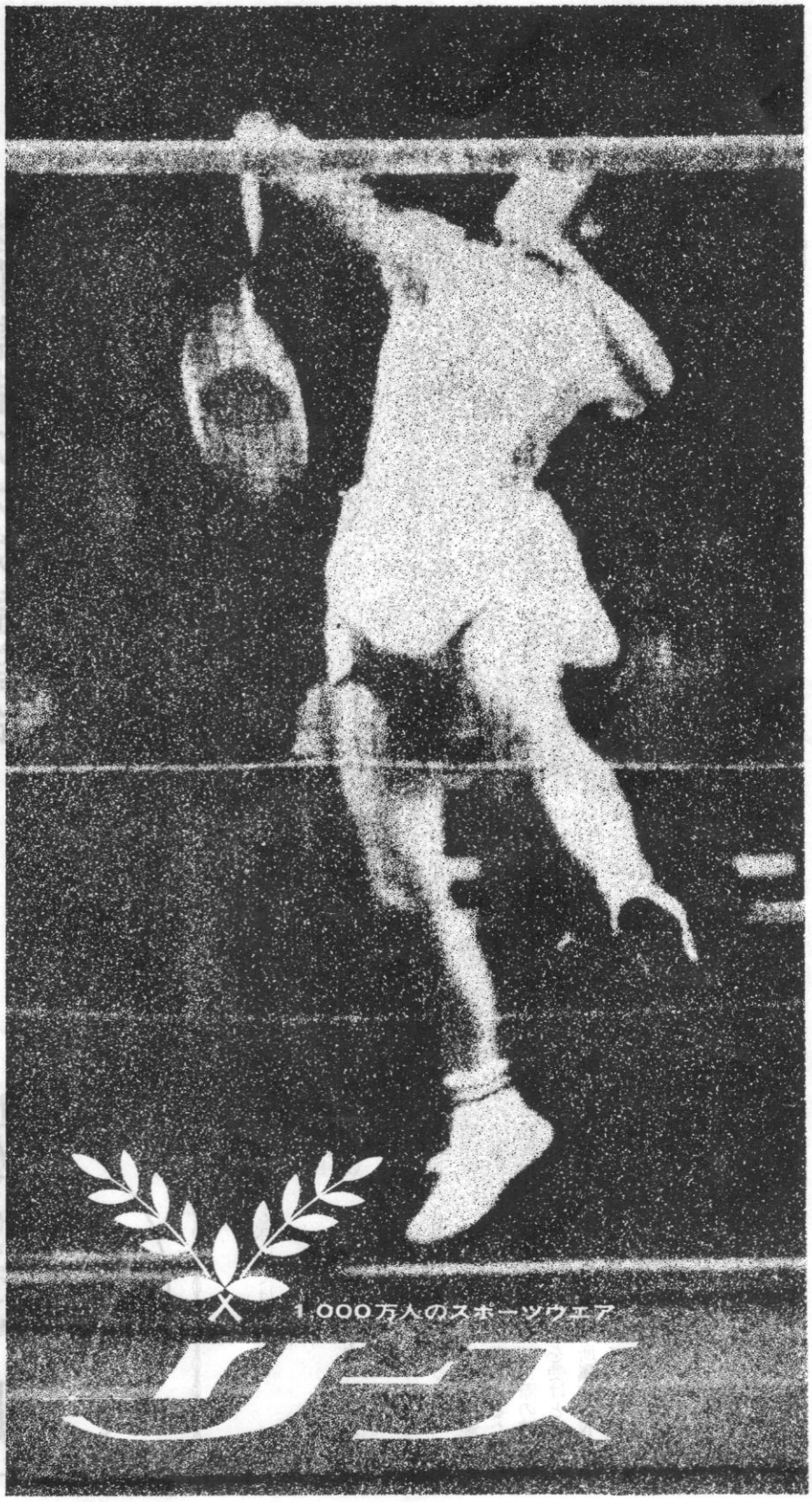
9部
1位 清泉女子大学 2勝1敗
2位 大東文化大学 2勝1敗
3位 東京大学 2勝1敗
4位 東京女子短期大学 0勝3敗
関東女子短期大学 休部
山梨大学 休部

10部
1位 青山学院短期大学 5勝0敗
2位 日本大学 4勝1敗
3位 外国語大学 3勝2敗
4位 跡見女子大学 2勝3敗
5位 十文字女子短期大学 1勝4敗
6位 白梅女子大学 0勝5敗

11部
1位 立正女子大学 6勝0敗
2位 東洋短期大学 5勝1敗
3位 淑徳短期大学 4勝2敗
4位 図書館短期大学 2勝4敗
5位 一橋大学 2勝4敗
6位 創価大学 1勝5敗
7位 専修大学 1勝5敗

以上 関東学生バドミントン連盟

この一瞬!!



あなたはひかる――はげしい動き、ふき出す汗、すべての条件を
プレイヤー本位に満たすカワサキの〝リース〟はあなたのウエアです。

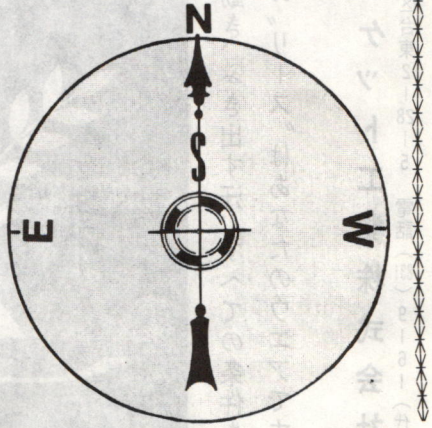
K TOKYO

河崎ラケット工業株式会社

東京都台東区台東2－28－5　電話（831）9－6－1（代）

ニュースと話題を追って
――後藤記者の内外展望台

〈ごとう・ただひろ＝東京新聞運動部〉



国際バドミントン連盟（IBF）から
アマチュア規定草案届く

IBF（国際バドミントン連盟）のいわゆるアマチュア草案ができあがり、日本に送られてきた。IBFのルールにはこれまでもアマ規定の条項があることはあるが、実質は〝名目〟だけ。各国協会が自主的に判断・処理して選手を管理し、資格のハク奪や復権についてはIBFに報告を要す、という程度の内容。具体的なものではなかった。

しかし、IBFがバドミントンのオリンピック実施種目入りをめざして静かに運動を続けていること、これに関連して、IOC（国際オリンピック委員会）筋から、アマ規定の整備について注文をつけられていること、などの事情から、早晩、規定の抜本的改正が必要とされていた。

折りよく、IOCは昨年10月ウィーン（オーストリア）で開かれた総会の席上「オリンピック憲章第26条、参加資格規制」を改訂した。すべてスポーツ競技は、それぞれ固有の歴史と考え方を持っているので、アマ規定も他を真似る必要はないが、IBFがこのたびまとめた草案は、この規定を下敷きにしており、バドミントン界の事情に照らし不必要、不都合な点などを除くと、IOC規定と大差ない。

ただしIOC規定にあるプロ条項（細則2a）すなわち「現在、ある競技においてプロであり、または過去においてプロの経験があってはならず、または大会の公式終了前にプロとなる契約を結んではならない」が抜けていることはおもしろい。すでに賞金付きの大会なども出現しているおりから、IBFの取り組み方が注目される。

新規定の草案全文（筆者訳）は次のとおり。

アマチュアリズム

アマチュアとして競技会に参加する資格を持つためには、競技者は次のことを守らねばならない。

1・IBF（国際バドミントン連盟）の規則、規定を順守するばかりでなく、自分の所属するNBA（各国協会）の規則、規定をも順守しなければならない。たとえNBAの規則、規定がIBFのそれらより厳しいものであっても、順守しなければならない。

2・本規則の細則で許されている場合を除き、自分がスポーツに参加することによって、金銭上の報酬または物質上の利益を受けてはならない。

同　細則

1・競技者は次のことは許される

（a）初等教育の体育またはスポーツの教員であること

（b）IBF規則の許す範囲において、競技に参加するための準備期間中および実際の競技期間中、次のものを受けとること

（i）自分の所属するNBAの管理下において、次の援助

・食事、宿泊
・交通費
・付随的出費のための小遣い
・事故、病気、私有物および廃疾に対する保険料
・個人が使用するスポーツ用

具および衣類
・医療費、物理療法費および認可されたコーチに指導を受ける費用
（ii）競技者が国際競技会へ参加するための準備期間中、または実際に参加する期間中、本来の仕事または本業から離れ、それによって金銭的損失を生じた場合、必要なら、各NBAの承認を得て補償金をもらうこと。
本項にいう補償金は、いかなる場合でも、当該競技者が当該期間中に、通常得るはずの金額を上回ってはならない。補償金は各NBAの判断に基づき、その承認を得た上で支払われる。
（c）各競技会あたり○ポンド相当以内の賞を受けること（訳者注・金額は原文空欄）
（d）学芸、技術に対する奨学金を受けとること
2・競技者は次のことをしてはならない
（a）自分自身、自分の名前、写真またはスポーツ業績を広告宣伝に使用させること。ただしIBFまたは各NBAが広告主や用具提供者との契約に関与している場合はその限りでない。
当該契約の支払いはIBFまたは各NBA宛になされるものとする。個人宛に支払われてはならない。
（b）国際競技会において、競技者が広告物を身につけたり衣類につけたりすること。ただし、IBFおよび各NBAが認めた、用具・衣類のトレードマークは対象外とする。
（c）スポーツ競技の種類を問わず、過去においてプロフェッショナル・コーチまたはプロフェッショナル・トレーナーの差験を持つこと。
（d）バドミントンに関連して年間の正当な出費を上回る現金または現金相当の物品を受けとること。



1975年全英選手権大会プログラムのC社の広告に登場したイギリスの代表的女子プレーヤー，ギリアン・ギルクス夫人。イギリスにおける“アマチュア”の解釈は日本と大きく離れている。

ソ連と北朝鮮がIBFに加盟

ソ連と北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）がIBF（国際バドミントン連盟）に加盟した。このほど、日本に送られてきたIBF総会（七月一日・ロンドン）の議題及び資料によると、この両国のほかオランダ領アンチリ列島のアルバガが加盟したので、74年末現在のIBF会員は、正式加盟が53の国または地域、仮加盟15、大陸連盟5で、合計73となった。
ソ連のバドミントンの実体はよく知られていないが、IBF理事で日本バドミントン協会副理事長の高倉正治氏によれば、この数年来、いくつかの欧州の国と交流を続けており、IBFのロビーでは「そのうち世界で最大の競技人口を持つようになるかもしれない」などと取り沙汰されていたという。
ひと口にいって、バドミントンの世界における普及度はまだ決して高くない。地域的に見ても、東欧、アフリカ、南米などでは、あまり行われていない。とくに、文化水準が高く、スポーツにも力を入れているはずの東欧圏の中で、IBF加盟国がチェコスロバキア、東ドイツ、ハンガリーと二カ国（仮加盟として、ほかにユーゴスラビアの一地方であるスロベニア協会がある）にすぎないのは、さびしいことだった。
そういう観点からすると、東欧の中心勢力であるソ連が加盟したことは、今後の東欧圏バドミントンに大きい影響を与え、また世界全般の技術水準の向上をうながすことにつながろう。
ソ連のようなスポーツ強国はその競技が、かなりの水準に達しない限り、国際舞台に顔を出さないのが、これまでのならわし。逆にいうと、国際競技会に出てくれば、初出場の時点で優勝したりメダルをとったりできる力を持っている、というのが、これまでの例だった。
今回の加盟については、国際政治上の含みから、東欧圏や北欧諸国が、積極的に応援し時期を早めた、との風説もある。が、それにしても、体育施設、クラブ制度の発達では世界有数のソ連のこと、現在すでに一定レベルにあると想像してもマトはずれではないし、かりに今、それ

ほどでないとしても、本格的にやり始めれば、成長は早いに違いない。日本にとって、また一つ、未来の強敵がふえた。いまから覚悟しておかなければなるまい。

今度はスウェーデンが

IBF総会の話が出たので、中国問題についても、ひとわたり説明しておこう。今度の総会では、スウェーデンから「台湾を除外して、中国をIBFに加入させる」という提案が行われる。

中国のIBF加盟提案は、すでにこれまで二度、IBFで論議の対象となり、その間、日本も提案国として積極的に努力してきた。しかし「加盟促進を働きかける」という以上には、これが実らなかったのは、中国加盟が〝台湾除外〟という、もう一つの難問をともなうためだった。

つまり、IBFとしては「台湾は除名される理由がない」と再三にわたって見解を表明してきた。たしかに、台湾は中国を代表してはいないが、IBFのルールでは、一国を代表する協会でなくとも、メンバーになれる（香港などのように）し、国の中の一協会が仮加盟になっている例もあるので、なかなかもって、話は簡単でないらしい。

しかし、今度は西欧圏の一員であり、英国、デンマークについでの強国でもあるスウェーデンが同じことを提案する。やはり、時の流れが徐々に変わり、西欧圏の考え方にも影響を与えつつあるということだろうか。

ところで、ABC（アジア・バドミントン連盟）は昨夏のテヘラン・アジア競技大会の折りに、中国を仲間として迎え入れた。これはIBFのルールからすると違反（IBFの加盟メンバーでないものが地域大陸連盟員になっている）になる。しかし、そんなことを正面から言い出せば、一大勢力であるアジア諸国を敵に回し、ケンカになってしまう。

そこで総会は七月一日の会議に先立って臨時大会を開き、この問題を〝善処〟することになったという。このあたりにも〝時の流れ〟が感じられる。

ついでにもう一つ。マレーシア・バドミントン協会は九月にクアラルンプールで開かれる第3回世界招待大会に、中国を招待する旨、明らかにした。

この大会は第一回が七二年十一月（男子のみ）第二回が七四年十月（男女とも）に、いずれもインドネシアのジャカルタで開かれている。実質的にはミニ世界選手権といっていいハイ・レベルな大会だが、中国はこれまで参加していなかった。

七月に中国のIBF加盟が実現すればともかく、少くとも現時点ではこの世界招待が、中国を含んだ世界一流選手勢ぞろいの、初のトーナメントということになる。

バドミントンとクイズ番組

テレビのクイズ番組で、バドミントンをテーマにしたものが出題されていることは、この前もお伝えしたが、今回もその続報を——。2題とも四月末から五月初めの「クイズ・グランプリ」（東京ではフジテレビ）に出て、回答され、いずれも正解で片付けられてしまったが…。

★主審の「ラブ・オール・プレー」というコールで始まる競技はなんでしょうか——答えは「卓球」と出たが、出題者も司会者も、どうやらバドミントンが同じコールで開始されることは知らなかったらしい。それだけ、まだ普及していない？

★バドミントンの試合には1ゲーム21点、15点と、もう一つ何点のゲームがありますか——答えは11点。もちろん話はそれでおしまいだが、さて1ゲーム21点制の試合など、競技規則には掲載されているにしろ、皆さん、やったことがありますか。実際、聞いたこともない人が多いのでは、と思いますが。むしろ、だから出題を逆にして「11点、15点のほかにもあるか」を聞いた方がよかった感じです。



本誌バックナンバーを間もなく販売いたします。

本誌は今月号で、創刊以来68号をかぞえました。その間、内外の話題とニュース、記録、多くの写真を収録してまいりました。

しかし、最近になって新たに本誌をご購読する方が急増し、それに伴って「本誌のバックナンバーをそろえたい」というご希望が、非常に多くなってまいりました。

すでに、本誌誌上を通じて何回か提供をしてまいりましたが、このたび協会保存用として在庫してあるものの一部を読者の方々に提供する準備をすすめております。

なかには、すでに在庫ゼロというものもありますが、初期のものも数十部程度お分けできそうです。

詳しくは追って誌上で発表いたしますが、事務簡素化と発送迅速化を図るため誌代を均一化させていただく予定です。

バドミントン界編集部

バドミントン・ハンドブック第Ⅲ編

審判に関する100問集①

日本教職員バドミントン連盟監修

日本教職員バドミントン連盟監修の「審判に関する100問集」が刊行された。競技規則、大会運営規定の各100問集とともに〝3部作〟を成す解説書の第三編に当たる。審判員心得、審判用語が付き、中学以上の人人にわかってもらえるよう、平易な言葉で説明されている。審判員資格を取ろうとする人達はもちろん、全バドミントン愛好家にとって〝必読〟の書でもある。

日本教職員連盟の多年のご努力とその労作に敬意を表しつつ本誌では特に「審判に関する100問集」を誌上に連載させてもらうことにした。

（おことわり）100問集の原本テキストは横書きですが、本誌はタテ書きであることを含め、編集の体裁全体が違うため原本の表現の一部を変える（例えば、「下記の通り」を「左の通り」とか「別記の通り」など）場合があります。

第1章　審判員

問1　審判員も大会役員だと思いますが、他の役員との関係を教えて下さい。

答　大会の運営にあたる役員は①総務②競技③審判の3本の柱から成り立っています（規定第4章役員の項参照＝注・規定は大会運営規定の略）したがって、審判員は大会役員です。

問2　審判員にはどのような種類があるのですか。

答　審判長、副審判長、主審、サービスジャッジ、線審の5種類です（規定17条）

問3　副審というのはないのですか。

答　以前にはありましたが昭和40年になくなりました。副審はラケットのフレームでシャトルを打ったとき、フォルトであった頃には必要でした。このフォルトを厳正に判定するために主審以外に、主審の反対側に位置する副審が必要だったのです。

昭和39年に競技規則が変わって、フレーム・ショットがフォルトでなくなったので、それにともなって副審も廃止されたわけです。

問4　よく点数を表示する係がつくことがありますが、この人も審判員ですか。

答　審判員ではありません。大会の競技委員長のもとにある点数表示係です。しかし、まるで審判員と同じに見えるくらい主審と協同して任務を遂行する大切な役目の人ですね。ですから、観客に見せるスポーツとするために、どの大会でもなるべくこの係をつけてほしいものです。

問5　審判員はだれが決めるのですか。

答　その大会の主催者側で任命します（規定18条）主管者があるときには、その主管者が決めます。（以下、一部略）

問6　審判員には、どういう人がなれますか。

答　審判員は、原則として公認審判員があたります。日本協会に公認審判員制度があります。日本協会の会員で、その検定に合格すれば、公認審判員の資格がとれます。公認審判員には1級から3級までがあり、審判長は1級、主審とサービス・ジャッジは2級以上、線審は3級以上と定められています（規定17条）

なお、審判員はその大会の出場者以外の第三者で定めるという条項もあります（規定18条）

問7　公認審判員の3級から1級の資格をとるにはどうしたらよいのですか。

答　3級公認審判員は支部（都道府県）協会主催の3級審判員資格検定会に参加し、所定の成績をおさめ、地区公認審判員資格審査委員会（以下、地区委員会という）より申請された者、2級および1級は日本協会の各級審判員検定会に参加し、所定の成績をおさめ申請された者となっています。

検定会では学科試験と実技試験があり、上級になるにしたがって合格する基準が高くなります。また、検定を受ける資格としては、日本協会会員であること、さらに2級は、3級審判員として2年以上の経験を有し、支部協会長および地区委員会の推薦が必要で、申請年度を含めて2ヵ年以上継続して日本協会会員であること、1級は2級審判員として3年以上の経験と、申請年度を含めて3ヵ年以上、日本協会会員であることが必要です（審査規定8条、9条、10条＝注・審査規定は公認審判員資格審査委員会の略）

問8　検定会についてもう少しくわしく説明して下さい。

答　検定会では、学科試験と実技試験を行います。審査規定13、14条で、1級、2級検定会の合格基準を次のように定めています。

（1級の場合）

学科試験＝常識問題10点、規則問題20点、合計30点とし、このうち27点以上

実技試験＝規則、コール、態度、運営各5点、合計20点としこのうち18点以上

（2級の場合）

学科試験＝常識問題5点、規則問題15点、合計20点とし、このうち18点以上

実技試験＝1級と同じ

（3級の場合）

3級の検定会ならびに検定方法は地区委員会の定めるところで行われますが、だいたい2級の場合に準じて行われているようです。

費用は別記の通りです。

（続）

	申請料	公認料
1級	200円	1000円
2級	200円	円
3級	200円	500円

サントリーが女子バドミントンチーム結成

男子バレーボールで話題をまいたサントリー株式会社（本社、大阪市北区堂島）が今度は女子バドミントン界に乗り出すことを決めた。同社の岸久雄取締役は十三日、東京・赤坂の同社東京支社で記者会見し「女子スポーツでも何かのお役に立ちたいと考え、世界的水準にあるバドミントンを選んだ。やるからには日本一の強力チームに育てたい」と語った。

同社は一昨年、大古選手を引き抜いて男子バレーチームを結成、一年で早くも日本リーグ入りしたが、その時すでに女子スポーツ界への進出も決めていた。

同社は十二日に日本バドミントン協会側と正式に話し合いを持ったばかりで、これからチームづくりをして実際に活動に入るのは来年四月以降になるが、監督にはすでに今回ユーバー杯のマネジャーを務めた山本次生氏がほぼ内定している。

（東京新聞6・14）

●愛知県●

役員改選　後藤淳会長再選さる

愛知県協会は三月三十日、総会を開いて役員改選を行い、後藤淳会長を再任した。スタッフは社会体育の振興、県民総スポーツの将来構想をふまえて人選された。

主な役員、次のとおり。

▽**会長**＝後藤淳（愛工大）▽**副会長**＝長谷川参三（名商大付高）吉岡紹直（椙山女大）▽**理事長**＝渡辺成雄（名古屋国税局）▽**副理事長**＝野口勇（三菱重工大幸工場）伊藤鉱一（名古屋市役所）▽**総務委員長**＝後藤守（名鉄不動産）▽**競技委員長**＝上原信彦（豊田自動織機）▽**指導委員長**＝青山敏郎（青山会計事務所）▽**普及委員長**＝多賀純一（トヨタ自動車工業）▽**審判委員長**＝田中章喜（時習館高）▽**広報委員長**＝大場直美（大成火災）

◇**昭和49年度愛知県総合ランキング**

▽**男子シングルス**　①本間順次（トヨタ自工）②谷口　寛（同）③松島　保（同）④松島信之（同）⑤平松孝孔（名古屋市役所）⑥加藤保利（名古屋鉄道）⑦八神由一（名古屋市役所）⑧梶川博之（トヨタ自工）

▽**男子ダブルス**　①本間・谷口（トヨタ自工）②松島・松島（同）③平松・八神（名古屋市役所）④加藤・菱田（名古屋鉄道）

▽**女子シングルス**　①池田静江（トヨタ自工）②布上茂美（同）③宮内すみ子（同）④波多野美代子（新日鉄）⑤小林洋子（トヨタ自工）⑥宝刀京子（名古屋鉄道）⑦榊原文子（日本電装）⑧迫田真由美（名古屋鉄道）

▽**女子ダブルス**　①池田・宮内（トヨタ自工）②布上・松谷（同）③宝刀・迫田（名古屋鉄道）④浦田・小林（トヨタ自工）

●広島県●

矢野、小畑が制す

第7回広島県個人総合バドミントン大会は、4月13日広島東洋工業体育館で開催され、次のとおりの結果となった。

▽**男子シングルス**
一位＝矢野（日立）、二位＝山岡（三菱）、三位＝大塚（日立）

▽**男子ダブルス**
一位＝南雲・田上（NKK）
二位＝山岡・安達（三菱）
三位＝矢野・安田（日立）

▽**女子シングルス**
一位＝小畑（友ク）、二位＝磯部（第一）、三位＝山崎（第一）

▽**女子ダブルス**
一位＝山崎・磯部（第一）
二位＝岩崎・小田（広大）
三位＝大谷・三倉（第一）

（資料提供＝橋本千代子様）

●愛知県●

新人戦大盛会となる

中日楯争奪第46回昭和50年度春季愛知県新人バドミントン大会は、4月13、27、29日名古屋市体育館および愛知県体育館で盛大に開催された。

結果は次のとおり。

▽**男子ダブルス**（参加148組）
一位＝宮津・山田（北クラブ）
二位＝真柴・飯田（中京大）
三位＝三島・天埜（東海高）
▽**女子ダブルス**（参加119組）
一位＝堀　・伊藤（淑徳高）
二位＝渡辺・今枝（電電東海）
三位＝唐田・岩田（三菱重工）

▽**男子シングルス**（参加280名）
一位＝沢　（名鉄）
二位＝山口（新日鉄）
三位＝佐野（日本電装）

▽**女子シングルス**（参加252名）
一位＝貫薗（豊田織機）
二位＝松若（豊田織機）
三位＝岩田（三菱重工）

●北海道●

全道大学春季リーグ開かる

第17回全道大学学生バドミントン春季リーグ選手権大会は、5月3、4、5日北海道大学体育館で開催された。

男子一部リーグでは北海道大学が3勝0敗で、女子一部リーグは北海道短大が3勝0敗でそれぞれ優勝した。

また個人戦の部では、次のとおりの結果となった。

▽**男子シングルス**（参加144名）
一位＝村上（北大）
二位＝奥山（旭教）
三位＝小野寺（学園）

▽**男子ダブルス**（参加67組）
一位＝平沢・中島（自短）
二位＝小野寺・小沢（学園）

三位＝村上・西村（北大）

▽**女子シングルス**（参加68名）
一位＝斎藤（北大）
二位＝平山（道短）
三位＝村上・西村（北大）

▽**女子ダブルス**（参加32組）
一位＝小林・沢田（札医）
二位＝戸田・山本（北星）
三位＝斎藤・広田（北大）

新執行部 スタッフ決定す

新執行部の各委員会、および各担当理事が、三月末の第1回常務理事会で次のように決まった。スタッフは追って決められる。

〔委員会〕＝最初に書いてあるのが委員長、二人目（または三人目も）は副委員長

⊙**総務**＝秋元信一、青木昭二
⊙**競技**＝内藤安雄、中田正彦
⊙**選手強化**＝上原正士、板垣隆房、伊藤基記
⊙**国際**＝高倉正治
⊙**アマ**＝森友徳兵衛、加藤三夫

〔担当〕
⊙**出版**＝秦　浩
⊙**IF**＝高倉正治
⊙**経理**＝並木万次郎
⊙**学連**＝中田正彦、中山広明
⊙**実連**＝小飼栄一
⊙**教連**＝布引修二、手利　清
⊙**高体連**＝亀山正雄、石原幸雄
⊙**中体連**＝遠井稔男、池田昌道

〔日本体育協会〕
⊙**国民体育振興**＝森友徳兵衛
⊙**スポーツ少年団**＝右同
⊙**評議員**＝本田弘敏

●日本協会●

新年度 強化合宿日程

◇ユーバー杯第8次▽4月13日－18日（熊本県芦北町文化センター）▽4月18日－19日（同八代市十条製紙体育館）▽4月20日－25日（同三角町三角中学校体育館）

◇ユーバー杯第9次▽5月8日－18日（横浜市日立戸塚工場体育館）

＝以上参加者＝監督・小飼栄一、コーチ・福井正康、中山紀子、マネジャー・山本次生
選手・湯木博恵、竹中悦子、相沢マチ子、池田美加、塩崎睦子、西尾真理子、秋本八代美、徳田敦子

◇トマス杯第2次▽5月1日－6日（栃木県小山市勤労青少年ホーム体育館）

＝以上参加者＝監督・遠井稔男、選手・秋山真男、小島一平、池田信孝、栂野尾昌一、今泉勉、本間順次、谷口寛、銭谷欽治、飯野佳孝、尾崎幹雄
ほかに自費参加者＝山本茂樹、栗原恒夫、遠藤好男
（以上はすでに終了）

なお、ト杯合宿はこのあとに▽第3次（6月24日－29日・小山市）▽第4次（8月23日－29日・小山市）▽第5次（9月13日－21日・東京）▽第6次（12月24日－28日・小山市）が予定されている。

ト杯アジア地区の組合せはすでに本誌64号でお知らせしたとおりだが、日本は9月20日、21日の両日、東京で香港を迎えて東地区1回戦を行う。次回戦は来年1月末日までに韓国と行うことに定められている。

●日本協会●

ママさんバドミントン 実態調査を開始

日本協会がママさんバドミントンの実態調査を始めた。

家庭婦人、いわゆるママさんを主な対象とするバドミントン愛好者は、この数年来、急激にふえ、その活動の一部は本誌上でもしばしばお伝えしているとおりだ。

しかし、実態はまさに千差万別。公私立体育館などを根城にする教室、クラブ、学校（PTA）を借りている活動、教室からクラブに進んだもの、地方支部協会や体育協会等と密接な関係を持っているもの、登録しているもの、いないもの、対外試合を行うレベルにまで発展しているもの……。

このため、日本バドミントン協会が、これらママさんたちとどんな関係を持ったらいいのかについて、理事会などで何度か話題となっている。しかし、日本協会が将来、どんな態度を決めるにしろ、まず必要なのは実態を知ることだ、というわけで、とりあえず指導委員会（里見光徳委員長）が、全国支部協会の協力を求めアンケート調査をすることに決まった。

調査項目は次のとおり。

◎クラブ名称
◎クラブ創設の時期
◎クラブの構成人数
◎日常練習の頻度（1ヵ月何回1日何時間）
◎練習場所、コート面数
◎運営費（会費）は何円くらいをどんな方法で集めるか
◎クラブ運営で一番障害になっていること
◎年間で集会などに一番、都合のいい時期は

ハガキによるアンケートだから、多項目を盛り込むのは難かしいが、できるなら①指導者（いるかどうか、いればどういう立場の人か、謝礼などはどうしているか）②競技会（クラブ内、同じ地区＝町、市、県等の大会に出ているか、ママさんだけの大会があるか、他地区、他県等のグループと交流があるか、将来、地方ブロック、全国などの開催、出場を希望するか）等の調査項目がほしかった。



昭和50年度日本バドミントン協会検定審査用具一覧表

（単位　円）

銘柄名		価格	会社名
検定合格			
シャトル・水鳥の部			
トーナメント・デラックス	1打	3,700	ヨネックス・スポーツ㈱
トーナメント	1打	3,200	〃
オフィシャル	1打	2,900	〃
エリートエース	1打	2,900	河崎ラケット工業㈱
エリートトップ	1打	3,200	〃
エリートデラックス	1打	3,700	〃
サンバタスター	1打	3,800	㈱諸江製作所
サンバタキング	1打	3,200	〃
サンバタクイーン	1打	2,900	〃
トーナメントブルー	1打	3,000	㈱トヨダスポーツ
トーナメントホワイト	1打	3,200	〃
トーナメントブラック	1打	2,750	〃
ファーストシルバー	1打	2,800	有限会社ジャワ商会
ファーストグリーン	1打	2,600	〃
ファーストゴールド	1打	3,000	〃
サンワ印ハイレッド	1打	2,400	㈱三和
ゴールド	1打	2,900	㈱ゴーセン
シルバー	1打	2,700	〃
ハタチビクトリー	1打	3,600	羽立工業㈱
シャトル・陸鳥の部			
トレーニングコック	1打	1,800	ヨネックス・スポーツ㈱
サンバタ	1打	1,800	㈱諸江製作所
ネットの部			
No.48　TR		4,600	ミセキネット製作所
No.52　A		3,800	〃
No.501　SVA		4,600	〃
KT－518		4,400	㈱寺西喜商店
綿20 1S/12本 テトロン防縮ロープ使用		4,300	㈱ジィティオ
ナイロン210 D/12本	〃	4,500	〃
綿20 1S/12本 ビニロンロープ使用		3,900	〃
ナイロンA（ナイロンラッセル15本）		4,700	鐘屋産業㈱
ナイロンB（ナイロン12本）		4,300	〃
倉敷ビニロン　20/12本		3,800	松本製網㈱
ポストの部			
T座式スチールポール		2,200	ヨネックス・スポーツ㈱
バドミントン支柱ホール式		10,000	㈱小川長春館
バドミントン支柱T座式		18,000	〃

銘柄名		価格	会社名
ファインストローク	（初級用）	2,200	河崎ラケット工業㈱
ウィニングコース	（選手用）	2,000	〃
スタミナ	（〃）	3,000	〃
スタミナデラックス	（〃）	3,500	〃
ブルーリース	（〃）	4,000	〃
オールマン	（〃）	4,500	〃
エリート	（〃）	5,000	〃
No.2000ニューブラック	（初級用）	2,500	㈱トヨダスポーツ
No.1000ニューミニ	（〃）	2,000	〃
No.8 ウィンナー	（〃）	1,500	〃
No.7 シルバー	（〃）	1,200	〃
ハイトーマス	（選手用）	4,000	㈱ゴーセン
エクセレント	（〃）	4,200	〃
ルバードII	（〃）	4,500	〃
ルバードIII	（〃）	4,500	〃
スワニー	（〃）	4,500	〃
ウエアの部			
140 クールネック		1,800	ヨネックス・スポーツ㈱
141 男子シャツ		2,000	〃
142 男子シャツライン入り		2,200	〃
144 男子シャツエリカラー		3,200	〃
241 女子シャツ		2,000	〃
242 女子シャツライン入り		2,200	〃
243 女子シャツノースリーブ		1,900	〃
120 ショートパンツ		2,800	〃
121	〃	2,400	〃
122	〃	2,100	〃
200 巻きスカート		2,600	〃
201 フレアスカート		1,900	〃
202 プリーツスカート		2,200	〃
172 セーター		5,500	〃
176 ベスト		4,500	〃
214 ワンピース		5,500	〃
820 男子ショートパンツ		3,300	〃
920 女子ショートパンツ		2,500	〃
940 女子ワンピース		6,500	〃
950 プルオーバー		6,000	〃
960 女子スカート		3,800	〃
テッドティンリンショートパンツ		3,300	河崎ラケット工業㈱
	〃	3,700	〃
テッドティンリン半袖シャツ		3,500	〃
デフィショートパンツ		2,500	〃

ＤＧ10バドミントン支柱（Ｓ型）	13,500	セ　ノ　ー　㈱
ＤＧ20　〃　（移動型）	24,000	〃
バドミントンポスト	10,000	㈱都村製作所
バドミントンポスト（Ｔ字型）	10,000	〃
ラインテープの部		
415 コートテープ	2,300	ヨネックス・スポーツ㈱
カワサキラインテープ	2,000	河崎ラケット工業㈱
ＤＫ91ラインテープバドミントン用	2,000	セ　ノ　ー　㈱
赤Ｍラインテープ	1,800	昭和ゴム㈱

審査合格

合成シャトルの部		
ナッシュ　１個	200	㈱諸江製作所
メイビス　１打	2,400	ヨネックス・スポーツ㈱
カワサキ・リープ（合成シャトル）	2,700	河崎ラケット工業㈱
ハタチハネエース　１打	2,700	羽立工業㈱
ラケットの部		
9100 スリムステンレス	5,300	ヨネックス・スポーツ㈱
9000 ハイステンレス	4,800	〃
8100 ブラッキー	5,500	〃
8000 アルミナハイパワー	5,000	〃
7000 アルミナエース	5,000	〃
6500 トップエース	4,300	〃
6000 ファイブエースデラックス	4,500	〃
3000 カレッジエイト	3,000	〃
2000 キングダイヤ	2,500	〃
1000 クインハート	2,200	〃
900Ｇ スリーエース（No.10Ｇ）	2,300	〃
800Ｇ スリーエイト（No.8Ｇ）	1,900	〃
700Ｇ ラッキーセブン	1,500	〃
Ｓ－74 オールアタック	5,500	㈱諸江製作所
Ｓ－73 オールマイティ	4,500	〃
No.3500 キングメイト	4,300	〃
No.3000 ゴールドキング	3,800	〃
No.2500 キングアロー	3,000	〃
No.2000 キングクリッパー	2,500	〃
No.1000 シルバーデラックス	2,200	〃
No.900 スナップ	2,000	〃
No.800 ダンディ	1,700	〃
No.7 ティピカル	1,400	〃
ハードショット（初級用）	1,600	河崎ラケット工業㈱
エバーウィン（〃）	1,900	〃

デフィ半袖シャツ	2,900	〃
〃	2,100	〃
リースショートパンツ	2,100	〃
〃	3,400	〃
リースフレアスコート	2,500	〃
リースプリーツスコート	2,000	〃
リース巻スコート	2,500	〃
リース半袖イタリアンネックシャツ	2,000	〃
リース半袖Ｖ衿シャツ	2,300	〃
リース半袖シャツ	1,500	〃
〃	2,000	〃
リーススリーブレス	1,900	〃
〃	1,800	〃
リース長袖シャツ	2,000	〃
リース半袖シャツ	2,100	〃
Ｌ－1206 ラコステ紳士ポロシャツ	4,300	三共生興㈱
Ｊ－5093 ラコステ巻スコート	4,500	〃
Ｊ－5020 ラコステプリーツスコート	4,500	〃
Ｊ－5411 ラコステワンピース	5,800	〃
Ｌ－1514 ラコステ婦人ポロシャツ	3,500	〃
Ｌ－2230 ラコステ紳士シャツ	4,800	〃
Ｊ－2006 ラコステショートパンツ	3,200	〃
Ｌ－1268 ラコステ紳士ハイネック	3,800	〃
Ｌ－1212 ラコステ紳士ポロシャツ	3,800	〃
Ｌ－6100 ラコステベスト	6,800	〃
シューズの部		
No.335 バドミントンシューズ	2,400	ヨネックス・スポーツ㈱
No.336　〃	2,500	〃
カワサキバドミントンシューズ	2,500	河崎ラケット工業㈱
ストリングスの部		
ロンシープ	300	河崎ラケット工業㈱
コンカー	400	〃
アカツキナイロン	200	〃
No.100 レオーネシープ	400	㈱諸江製作所
No.20 サンシープ	300	〃
600 ヨネックスシープ	350	ヨネックス・スポーツ㈱
610 ヨネックスシープＤＸ	400	〃
ハイオーシープ（青スパイラル）	500	㈱ゴーセン
〃（アンバー）	500	〃
〃（青スパイラル）	400	〃
〃（ピンクスパイラル）	400	〃
ハイシープ	350	〃

発賞
ツ賞
さんに決定

島根県の女子競技界から久々に全国的な選手が誕生した。「まさか全国大会で優勝できるとは思わなかった。でもちょっぴり自信もあった」－北島さんは昨年八月、熊本市で開かれた全日本教職員バドミントン選手権大会で並みいる強豪を相手に見事、初優勝を飾った感想をこう語っている。昨年三月、日体大を卒業、帰県して教壇に立ってから間もなくの栄光だけに喜びもひとしお。まだうら若い北島さんは「ことしの大会もぜひ連続優勝をねらいたい。それに、いま教えている生徒たちが高校総体で入賞してくれれば申し分ないのですが」－と小さな体（身長一五一㌢）いっぱいに闘志をみなぎらせながら毎日トレーニングに励んでいる。

ところで北島さんは、すい星のごとくバドミントン界に登場、現在では県内どころか全国トップクラスのプレーヤーとして知られているが、その原動力は何といっても全身バネのような身体に加えての忍耐力と根性。

八束郡鹿島町の鹿島中学時代はバレーボール、体操、陸上（砲丸投げ）とあらゆる競技をこなし、ことに砲丸投げでは10㍍40㌢をマーク、中国大会で六位に食い込んだこともある。四十一年三月、同中学を卒業、松江市立女子高校に入学。この時「体操をやりたいな」と思案していたところ同校バドミントン部監督の大北哲也教諭の目にとまり、入部することになった。バドミントンという競技があることは知っていたが、ラケットを握ったのはこれが初めて。大北教諭に基礎からみっちり仕込まれた。

一、二年の時は新人戦に登場したぐらいで活躍した記憶はないというが、猛練習のかいあって三年生になってめきめきと腕をあげた。四十四年秋、下関市で開かれた中国大会の団体一回戦で同女子高チームは強豪下関南高と対戦して惨敗したが、北島選手だけはポイントをあげ、同校の面目を保った。「あのときは負けてなるものか、と無我夢中でした」と当時を振り返る。

恩師の大北教諭は「北島君は運動神経が抜群にいい。スタミナがあり、闘志をむき出しにする北島君は将来必ず大物になってくれると確信していた」と語り、入学当時から期待をかけていたという。

高校三年の秋、家庭の事情で一時大学進学をあきらめかけたが、やがて兄弟の温かい援助で小さい時からあこがれていた体育専門の日体大に進学。バドミントンクラブに入り、一年生の時からレギュラーでインタカレッジに出場するなどして活躍した。この時すでに関東選手権大会でベスト十六位、東日本選手権大会でベスト八位に入っている。二年生になってからも関東選手権大会で八位に食い込むなどめきめき実力を発揮。そして三年生の春には同大の部を背負って立つ立場となり、部員の信頼を集めて主将におされた。四年生の十二月、オールジャパン（全日本総合バドミントン選手権大会）十六位、同年十一月福岡市で開かれたインタカレッジついに三位の栄誉に輝いた。

昨年三月、同大学を卒業して郷里に帰り教職の道に入ったわけだが「大学四年の時にやっと教員になることを決意した」という。

町ぐるみスポーツに情熱
たゆまぬ努力 教職員大会で全国優勝

北島さんの教員としての最初の任地は大原郡大東町にある県立大東高校。赴任早々校内にバドミントン同好会を結成、生徒たちにバドミントンを教えた。そして生徒の指導に当たる一方、自分も恵まれない条件を克服しながら練習を積み、同年八月、熊本市で開かれた全日本教職員バドミントン選手権大会に出場した。社会人になって初めての大会である。学生時代の余勢をかって見事シングルスで優勝をかち取った。「相手はキャリア豊富で技術的にすぐれた人ばかり。とにかくこれまでの練習の成果をぶっつけて体ごと勝負してみよう」と死にものぐるいで戦ったのがよい結果を生んだのでしょうという。

次いで同年九月、松江で開かれた中国社会人選手権大会でもかつて不敗のエースとして知られるクラレ岡山の三田選手を破り、女子単でまたまた優勝。女子競技界に不動の地位を築いた。

北島さんは自分が競技に参加するだけでなく大東町内で、バドミントン教室を開き地域の中にバドミントンの普及にも力を入れている。

北島さんは「私個人の試合参加も大切ですが地域の指導にもっと力を入れ、バドミントンを町ぐるみのスポーツに育てあげたい。そして五十七年の島根国体では何が何でも島根から優勝者を出したい」と早くも島根国体をめざして意欲を燃やしている。

生徒と一緒に苦しい練習

北島さんは大東高校に勤務のかたわら、バドミントンの普及に力を入れ、今では地域の人たちにとって欠かせない存在。

昨年の四月、同校に着任して北島さんが真っ先に考えたのは「今の若い者は気迫に欠けている。高校生らしいキビキビした行動力のある人間に育てていこう。幸い大東町は五十七年島根国体のバドミントン会場になっている。私の特技が学校や地域の中で少しでもお役に立てるならがんばってみよう」というこ

山陰中央新報地域開
島根県第19回スポー

北島稔子

（大東高校教諭）

とだった。

早速、同校にバドミントン同好会を結成した。部員を募ったところ、物珍しさも手伝って女生徒十四人が入部した。バドミントン競技を全然知らない生徒ばかりなので教える側もひと苦労。ラケットの握り方、シャトル（羽根）の打ち方など手を取り、足を取りして教え込んだ。

また「体力づくりには走るのが一番と放課後になると部員を集め、学校周辺の山道を徹底的に走り込ませた。練習時間は二時間余りだが汽車通学の生徒もいて部員は次々に減り、ことし三月には男子二人を含めてわずか五人となった。新学期に入って新入生が五人入ったので現在の部員は十人。練習は決して生やさしいものではない。第一に根性がなければ続かない。新入生を除く五人は意欲をもって練習に励んでおり北島教諭は「これからが本番、六月の県高校総体では他校と勝負が出来るまでにもっていきたい」と話す。一方、学校での指導と合わせて北島教諭が情熱を燃やしているのが、地域への競技普及と指導。

昨年九月、県体協は日本体協の委嘱事業として県内五会場で「バドミントン教室」を開いたがその一会場に大東町も選ばれた。この同教室は一会場百五十人を対象に、八百時間の講習を行い、競技の普及と選手の養成をするのが目的。この講師として狩り出されたのが大東高の同僚である石倉潔教諭と北島教諭。ことし一月まで月二回町内の同好者に秋季は午後八時から十時過ぎまで冬は午後七時から九時まで、バドミントンの基本から高等技術までを精いっぱい教えてきた。

受講者は小学生から大人まで百六十四人にのぼり、これらの人を中心に三月には初めての町民バドミントン大会が開かれた。赴任後一年経過したいま教員生活と町内の様子にもやっと慣れてきた北島教諭は「この一年間はまったく夢中でした。これからも講師の要請や大会などがあればどんどん出かけ知っている限りのことを教えたい」と意欲的。地域の中にバドミントンを定着させた功績は大きく今回のスポーツ賞受賞に学校関係者はもとより、地区の人たちも温かい拍手を送っている。

北島さんの横顔

北島さんは、昭和二十六年六月二十七日、島根県八束郡鹿島町武代で鉄工所を営む父佐助、母志めさんの五人兄妹の末っ子として生まれた。幼いときから活発で、近くを流れる佐陀川によく泳ぎに行ったり、木登りなどをして親をハラハラさせたりしながらも、スクスクと成長した。

こんな北島さんにも一時クシュンとしたことがある。四十年の一月、父の佐助さんが倒れて、松江市内の病院に入院、九カ月間ベッドで闘病生活を続けたあと、同年九月ガンで息を引きとったのだった。入院中予想されていたこととはいえ、当時中学三年の北島さんにとっては少なからぬショックで、しばらくはご飯ものどを通らぬほどだったという。しかし、もともと明るい性格だった北島さんは「もっとしっかりしなければ…」と心に誓った。スポーツマンに不可欠な忍耐力と粘り強さ、根性はこの時、生まれてきたのかもしれない。

「私ってすごく短気なの…。そのせいかしら、せっかくクラブに入ってきた生徒たちがどんどん辞めていっちゃう。でも良い所は物事にあまりこだわらず、さっぱりしていることではない

スポーツが〝恋人〟
粘り強く明るい性格

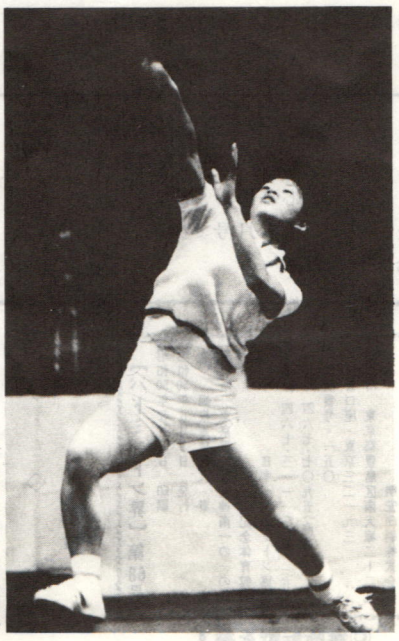
趣味はもちろんスポーツ。鹿島中学時代バレー部に一時、籍を置いたこともあったし、フィールド競技（砲丸投げ）で中国大会六位入賞の実績もあるという万能型。また小さい時に習ったモダンバレエも好きという。

「要するに体を動かすものなら何でも好きなのね」と言ったあと「でも、私だって女です。料理や手芸など一応こなせるわ」とあわてて付け足した。

世間一般では結婚適齢期といったところだが、目下の北島さんの恋人はもっぱらスポーツといったところ。「でも二年後には何とか結婚したい」とちょっぴりはにかみながらも目を輝かした。

放課後になると、体育館のコートに立って「もっと前に打って…」と生徒たちに大きな声をかける北島先生は、なかなかの美人。体育館には遅くまで明るい声がこだましていた。

（山陰中央新報4・24）



今年のチャンピオンズ・トーナメントに出場したときの北島さん

かしら…」と屈たくのない笑顔で自分を分析する。この辺りが生徒や同僚の先生たちの人気を集めているゆえんかもしれない。

日本バドミントン協会副会長

村岡四郎氏を悼む

森友徳兵衛

かねて病気療養中の、村岡四郎副会長は、五月二十八日、心不全のため逝去されました。つつしんでお知らせいたします。

私が昭和三六年に、日本バドミントン協会理事長の重責を負った時、上原正士さんに連れられて早速大阪でお目にかかって、励ましていただいたのが最初なのである。

その後折りにふれ、上原さんと打合せては世界大会やアジア大会のお願いやらお礼やらに参上したものである。

多端な御用事を脇に押しやって、というか、上原さんのアポイントメントが完全であってというか、何時もきちんとした時間にお目にかかることができた。

故平沼亮三さんをいつも思い出すのだが、丁度同じように咽喉に穴があいていて、上からグルグル包帯を巻いていて、穴に聴診器のような器具をあてながらゴム管を通して御話をいただいたものである。何しろ話すのが大変なことなので、必要最少限のこと、大方はこちらの話を眼を見開いてよく聞いて下さった。威厳あたりを払うということはないまでも、堂々として体格風格は、ガンコなおやじさんに見えた。しかし話の判りは至極妥当で——無理な線を出なかったのが成功と思っているが——日本バドミントン協会は、何時のときも気持よく応援して下さったことを忘れてはならない。

私は今、日本財界の損失という思いを禁じ得ない。——バドミントンの分野を遙かに超えた大きな日本の存在だったのである。

（日本バドミントン協会副会長）

編集室から

○…大変残念なことに、ユーバー杯V4はなりませんでした。選手・関係者一同全力を尽くした結果が、このようになってしまったのは不運というほかありません。

しかし、この結果は三年後への出発ということを意味するわけです。もう一度原点に立ち帰り、奪還への決意を新たにしなくてはなりません。

○…今回のユ杯に関する記事と写真は、来月号で特集いたしますので、ご期待下さい。

○…惜しくも防衛には失敗しましたが、そのチームの要として健闘した湯木選手を追跡した、大沢健一さんの「バドミントンに賭けた青春」はいかがですか、知られざる一面を少しでも伝えることができれば幸いです。

○…各国でバドミントンにかぎらず、スポーツそのものの動きが活発になってきたようです。ブラジルのサッカー王ペレが、アメリカにスカウトされたり、いろいろとにぎやかになりました。このあたりの情熱は、今後逐次、後藤記者に伝えてもらうことにしましょう。

○…現在バックナンバーをそろえたいというお便りが急増しています。そこで、資料保存分を確保したあと、在庫の一般開放の準備を進めています。

追って本誌誌上でお伝えしますので、もうしばらくお待ち下さい。

○…また、写真集の計画も着々と進行しています。全英選手権、日中大会、ユーバー杯などを中心に、楽しいものを企画しています。発行日、定価などは決まりしだい誌上にて発表いたします。

○…今月も連載マンガと、ヨネックスバドミントン教室を紙面が足りず休ませていただきました。お詫びいたします。

新しい競技規則書（ルールブック）ができました!!

バドミントン競技規則書（改正版）には，従来どおりの大会運営規定，審判用語のほかに，公認審判員資格審査規定，審判員心得がついています。

ご希望の方は日本バドミントン協会事務局（住所は本誌編集部と同じ）へ，定価300円と送料1冊につき25円を添えてお申し込み下さい。

連載マンガの主人公 来月号で名前を発表!!

多数のご応募をありがとうございました。いよいよ来月号で発表いたします。お楽しみに!!

◇ ◇ ◇

【バドミントン界】第68号
昭和50年5月25日　印刷
昭和50年6月1日　発行
編集兼発行人　森　浩
発行所　東京都渋谷区神南一の一の一　岸記念体育館内　日本バドミントン協会
電話　四六七・三一一一（内線）三五一　四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所　東京都豊島区南大塚二一二九　明玄印刷株式会社
定価　一部二百二十円

©無断転載を禁ず

スピード、パワー、スマート——近代バドミントンを追求するゴーセン

人気独占



Hy Thomas NO.845ハイ・トーマス

勝ちたいなら——ゴーセン!

ゴーセンバドミントンラケットの人気が急上昇しています。一流選手のアドヴァイスを積極的に取り入れ、開発された特殊合板による力強いフレーム、抜群の弾力性、重量・バランスの素晴らしさなどがその秘密。

さらに世界で初めてのステンレスワイヤー巻付・特殊油・香水入りガット《ウィンテックス》が加われば まさに鬼に金棒。あなたのスコアアップはゴーセンにおまかせ下さい。

★世界のガットと言われるゴーセンガットは、その一本一本にすべて品質保証のネームが記入されています。よく確かめ類似品にご注意下さい。

●シャープさで定評のゴーセンバドミントンラケットもお試し下さい。

ラケットの決め手

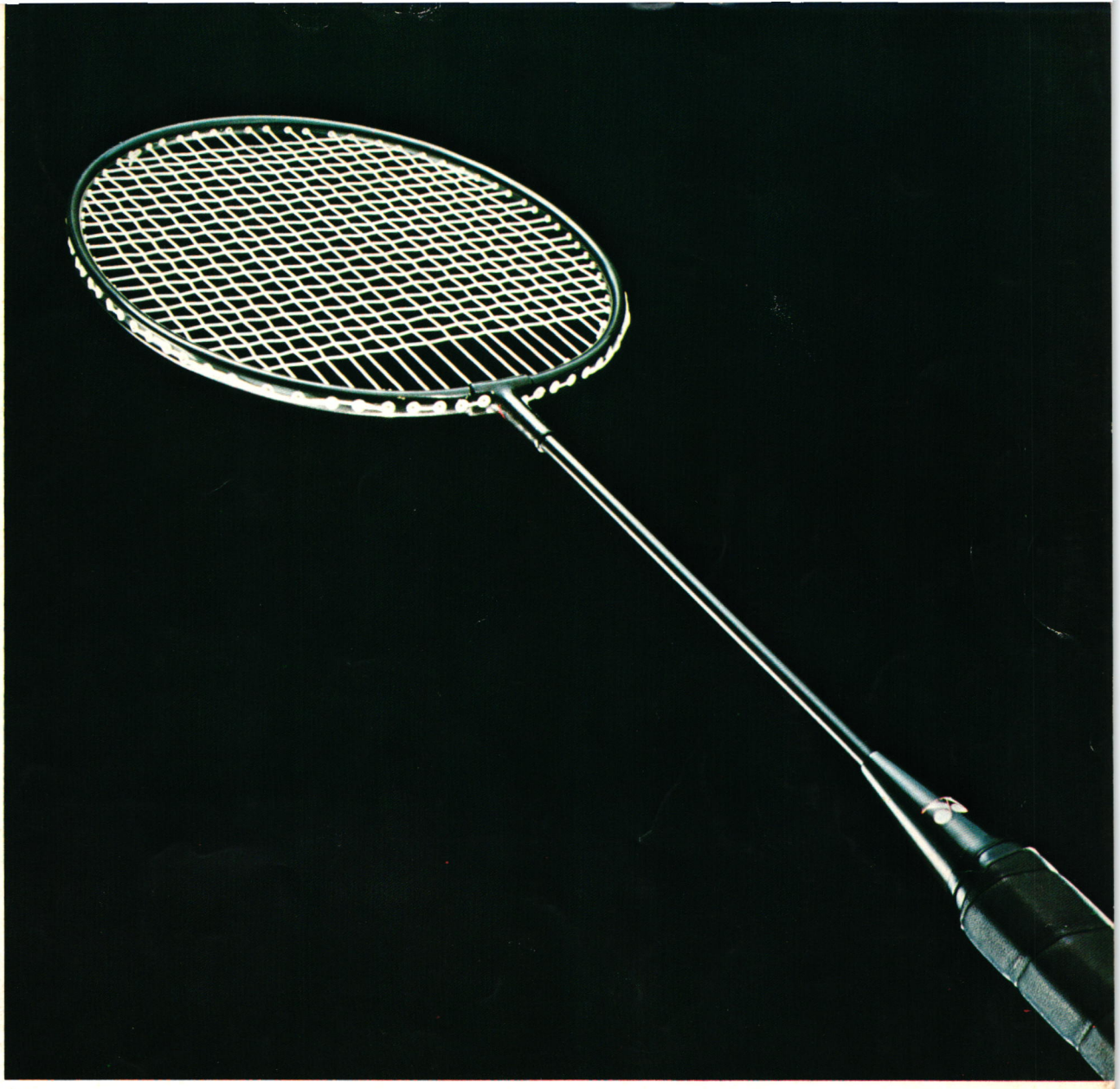
Hy Thomas

株式会社ゴーセン

●本社・大阪市東区豊後町4 ☎06-942-5816

●東京支店・東京都台東区蔵前4-14-2 ☎03-862-6576

月刊「バドミントン界」第18号
昭和五十年六月一日発行（毎月一回一日発行）
発行所
東京都渋谷区神南一ノ一ノ一
岸記念体育会館内
日本バドミントン協会
定価二百二十円



時速270kmのスマッシュ！

まっ黒いラケットから、まっ白いシャトルコックが時速270kmのスピードで、相手コートにたたきつけられる。目にもとまらぬスマッシュ。今や噂のラケット、ブラッキー。その秘密はヨネックスが初めて可能にした、極細の特殊ステンレスシャフト。ぐんと細身で、普通より長目ですから、まるでムチのように打つ瞬間鋭利にしなります。息をのむ反発力です。そのうえ、特殊合金フレームの強さがプラスされ、切れ味のよい攻撃力。あそこで、ここで、ブラックパワーと恐れられています。

No.8100 BLACKEN

●No.8100ブラッキー……￥5,500

YONEX